



流句有留 連載 社会科学院

1/13

冷戦が終わって、いよいよ出番 国際連合に、平和をまかせられるか

文・橋爪大三郎

一九四五年四月二十五日、サンフランシスコ市のオハラハウス。二度の世界大戦で苦勞を感得つた世界の国々が集った。

「戦争の惨害から将来の世を救え、国際の平和及び安全を維持するためにわれらの力を合わせよう」

「国連憲章前文」
こんな国連が日本人は、大好きだ。そうか、日本の平和憲法をうんと立派にしたのが国連憲章なんだ。

でもちょっと、待ってほしい。実際の国連は、そんな甘いものじゃない。たとえば……

「国連」とは要するに、「連合国」のこと

国際連合のことを英語で、ユナイテッド・ネーションズ略して「UN」という。何のことはない、日独伊を相手に第二次大戦を戦った、連合国という意味。その証拠に中国では、国連を「聯合國」と訳している。

第二次大戦も終わりが見えてきたころ米英ソなど主要国は、これからどうしよう国際機関を作って平和を維持したいか、しきりに相談した。第一次大戦のあとに作った国際連盟は、全員一致を原則にしたため、加盟国が対立して大事なことが何も決められず、結局戦争を防げなかった。今度はもう少しましなものを作らなければ、みんな決意していた。

ナチス・ドイツや大日本帝国が大暴れして、世界中がひどい目にあつた。また暴れ出さないよう、戦後も連合国がしきりに見張る。国連憲章には第一〇七条「敵国条項」というのがあって、ドイツや日本など旧敵国と調印した降伏条約の効力を確認している。もちろん、それ以外の国も、勝手な侵略戦争を始めないように監視する。

国際連盟とは、ここが違う

昔の国際連盟は、アメリカが加入しなかったせいもあって、ヨーロッパの国々中心だった。日本は、満州国の建国が認められなかったのを不満として、国際連盟を脱退。どうもこれが後ろめた。だから一九五六年、国際連合に加盟が認められると、日本中が大喜びした。

これまで正式の国連軍が結成されたことは、実は一度もない。停戦や選挙を監視する目的で、国連が軍隊を派遣したことがあるだけ。戦争するのが目的ではないので、人数も少なく、中小国の軍隊の寄せ集めだった。今度の安保理決議は、一九九一年一月十五日までの期限をつけて、イラクにクウェートからの撤退を求めている。イラクが拒否すれば、戦争になる公算が大きい。アメリカを中心に、ソ連、イギリスなども加わった。朝鮮戦争のときみたいな変則「国連軍」ができるはずだ。

「国連平和維持部隊」は、役に立つのか

冷戦が終わって、安全保障の見直しが進んでいる。ヨーロッパでは、大規模な軍縮が実現し、ワルシャワ条

さて、この国際連合だが、総会と安全保障理事会(以下、安保理)の、二本柱の組織になっている。

国連総会は毎年、九月の第二土曜日からクリスマス頃まで開かれる。議決は多数決。人口十億の国も十億の国も、同じ一票である。六〇年代に、旧植民地が続々独立して加盟したので、現在加盟国は百五十八ヶ国である。ただし小さな国々が相まじっているため、世界人口のたった10%にすぎない国々が、総会で三分の二の多数を握っている。かなり不公平だ。

とはいっても総会は、大事なことを決定する場所ではない。いろいろ議論した結果を、加盟国や安保理に勧告「できるだけである」

いっぽう安保理は、常任理事国五、非常任理事国(任期二年)10の、計15ヶ国からなる。常任理事国はアメリカ、イギリス、フランス、ソ連、中国。第二次大戦を勝利に導いた国々だ。これらの大国が拒否権を持って、親分衆のように居すわってあり、そのうち一国でもNOと言えば、安保理の決議にはならない(大国一致の原則)。

平和の元締め、安保理常会

五つの常任理事国が歩調を合わせれば、ほかの国は逆らえない。だから国連があれば、平和が維持できるはずだった。平和を脅かす国が現れたら、まず経済制裁。それでも効き目がない場合には、国連軍を組織して、武力行使に踏み切ることになっていた。

ところがいよいよ、米ソの冷戦が始まってしまった。ソ連も核兵器を開発して、ことごとくアメリカと対立する。拒否権の応酬で、安保理で何も決まらない。国連は開休休業。仕方ないから、平和を維持する役目は、NATOやワルシャワ条約機構みたいな、地域的な安全保障の枠組みに交代させられていった。

唯一の例外は、朝鮮戦争だった。

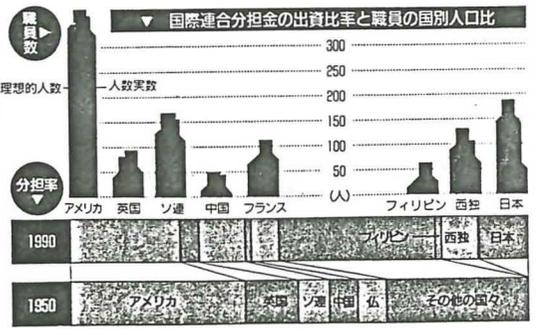
一九五〇年五月、突然38度線を越えて攻めてきた北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)軍に、韓国は風前の灯し火あわてたアメリカは、たまたまソ連が安保理をボイ

約機構が解体することになった。いっぽう北大西洋条約機構(NATO)は、機動軍を設け、これまで守備範囲外だった中東などにも、いざというとき軍隊を派遣できるように準備を進めている。

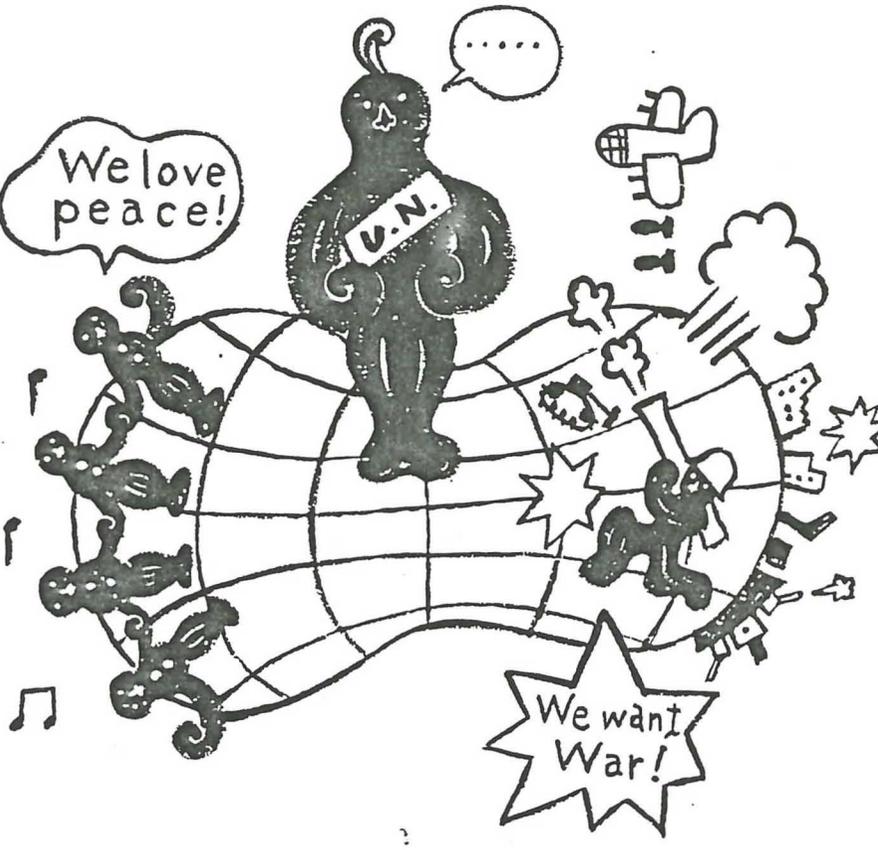
くすくすせず、日本も何かしらとアメリカがせっついたので、海軍内閣はあわて「国連平和協力法案」を作った。自衛隊を部隊で、海外に派遣するというのは、限りなく憲法違反に近い。戦闘に加わらない、危険な場所にも行かない、というけれど、それなら何しに行くのだろう。さっぱり理解できない。廃案になったのも当然だ。

いちはんの矛盾は、国連が「集団的自衛権」を認めて

いちはんの矛盾は、国連が「集団的自衛権」を認めて



注：上記の図は、外務省国際課の資料をもとに当編集部で作成したものである。分担金は、出資全体に対する主要国の分担率を示している。1950年度時、日本、およびソ連は国連に加盟していない。職員の数別人口比は、1990年6月30日現在の国連事務局の職員数で分担率からの読みと、職員数と実際の職員数とが人型で表されている。日本は、分担金の割に職員数の少ないのがよくわかる。



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。1月に論文集「現代思想はいま何を考えればいいのか(勁草書房)」を出版しました。……あれほど騒いだ国連平和協力法がかりに成立したとしても、出動した自衛隊は危険を避けて逃げ回るだけ、かえって評判を落としていたでしょう。アメリカが何と言おうと、憲法を理由にはっきり断ればよかった。

いにはんの矛盾は、国連が「集団的自衛権」を認めて
米ソが手を結び、国連の時代がやってきた。常任理事国の五大国が結束を固めている間は、平和が維持されるだろう。沿岸危機をうまく解決できるなら、これからはよくこのやり方で、世界は動いていくはずである。
残る問題は、旧敵国で、戦後経済大国にのしかかっていたドイツと日本が、いつまでも国連で脇役にあまんじていないのか、といふことだ。
ドイツの役割は、それでは足りてきた。NATO加盟国として、それなりの分担を果たしているし、E.C.の中心として、ソ連・東欧の援助に力を入れている。それにひきかえ日本は、一体何をしようというのかよくわからない、と思われている。おまけにアジアの国々は、日本がまた軍事大国にならないかと、警戒している。自衛隊は、誰と戦うのかはつきりしないのに、いつの間にか世界第6位の戦力に膨張した。その割に国内の世論は、その辺のことを特に議論していない。
国連中心の、新しい平和の秩序(集団安全保障体制)が出来つつある。日本もそれを積極的に支えるべきだろう。軍事面で力を貸さなければ、代わりに国連の経費を思い切った分担するなり、第三世界への援助を一手に引き受けるなり、やるべきことはいくらかある。そのうえで、国連がどうしても言うのなら、そのとき国連軍への参加を考えてみたいとはいではないか。

20年後のあなたはどうなっている？ 入っていければ安心!? 年金・保険

文・橋爪大三郎

あなたは月六万円、生活できますか？
「国民年金はこすね、現在の段階で一人あたり月々六万円程度しか支給されないんです。これが将来20年後になりますと、おそろしく万が一程度になります。お小づかいにもなりませんね。」「結婚しないかもしれない、健康問題、の苦痛、谷村志郎さん（九六一年生まれ）は、保険のセーレスレディさんにこう言われてびっくり、その場で個人年金に加入してしまつたという。

人生は長い、長すぎるかもしれない。若くて働けるうちはいけれど、年をとつたら、貯蓄と年金が頼り。今からその準備だけはしておきたい。今月は年金を、今後の生活設計を考えます。

●国民年金だけだと、たしかに心細い

昭和六十一年の四月を境に、年金は大きく変わった。厚生・共済・船員……とバラバラだった年金が、国民年金を中心に一本化した。サラリーマンが厚生年金に加入すると、自動的に国民年金にも加入したことになる。公務員が共済年金に加入した場合も同様（以下、厚生年金とあるところは、共済年金も含むと考えてください）。

任意加入だったサラリーマンの妻も、平成三年四月からは学生も、20歳以上の国民は全員、国民年金に加入が義務づけられている。しかも今度の改正の柱は「女性の年金権」の確立。夫のおまけでなく、必ず女性本人の名義で加入することになった。離婚したら、年金が買えなくなった、なんていうこともこれで防げる。

もっとも、いきなり新制度に移行して、旧年金に加入していた人が不利になるといけないので、経過措置も定められている。生まれた年に応じたややこしい計算があるけれど、丸・クルル、読者の皆さんにはとりあえず関係なさそうなので、省略します。

さて、今度の制度（新制度）は二階建てになっている。一階にあたるのが国民年金（基礎年金。毎月八八〇円）の保険料を5年間納めると、65歳から毎月、五万六千七、円の老齢基礎年金を受け取れる。その上の階が、

積み立てておかないといけない。

自営・フリーで仕事をしている人の場合は、国民年金だけにしか入れない。必要な加入期間は25年間だから、ギリギリでも10歳までに入っておかないと、無年金者になってしまう。お金がなくてもとにかく早めに入し、そのあとで「免除」の申請をしましょう。保険料をただ滞納したのでは、加入期間に数えられないが、免除の手続きをすれば、ずっと加入していたことになるうえ、その間の年金額の三分の一も受け取れる。

●結婚・出産などで、遅滞するケース

国民年金を貰う資格のある人には、たとえどんなに短い期間でも、厚生年金に加入していた方がプラスされる

厚生年金。会社に勤めていた年数や、その間に支払った保険料の金額に応じて、60歳から老齢厚生年金が貰える。平均標準報酬月額25万円、10年加入の人の場合、毎月七万五、〇〇〇円程度になる。厚生年金は、保険料の半分を会社が負担してくれるわけだから、得な年金だ。自営業やフリーランスの人は原則として厚生年金に入れないので、二階がなくて一階の国民年金だけ。

●国民年金は、得か損か

ところで国民年金は、名聞こそ「強制加入」だが、罰則がないから、嫌なら保険料を払わなくていい。私の知り合いのR子さん（フリーランス、20歳）は「どうせそんなに貰えそうもないし、毎月払うお金がもったいない」と、前の会社を退職したあと、国民年金の手続きをしていないという。

じゃあ国民年金は、得なのか損なのか。ここが一番知りたいけれど、長生きすればするほど得になるのが年金なので、いちがいに利回りを比較できない。しかも平成二年から、年金額は完全に物価スライドすることになった。65歳から死ぬまで、今の物価で言ったらほぼ六万円に当たる金額が、毎月保障されるはずだ。（この先制度が変わらなければ、まあ損はないだろう）ついでに言うと、冒頭のセーレスレディは、個人年金を勧める場合の決まり文句で、国民年金をかなり悪く言ってます、念のため。

●でも年金を、ほかの貯蓄と同じに見てはいけない

何のための年金かといえば、取入のなくなる高齢者に一定程度の生活を保障するため。国民お互いの助け合いの制度である。しかも生活保護と違って、年金は、一定期間間加入してさえいれば、誰でも堂々と無条件で受け取れる。低い金利で住宅ローンだって借りられる。それに万一、後遺症の残る事故にあったり、夫が死んだりして、年金に加入していれば、障害年金や寡婦年金が支給される。安心料みたいな要素もあるわけだ。

ただし、公的年金の支給額は、決して十分でない。厚

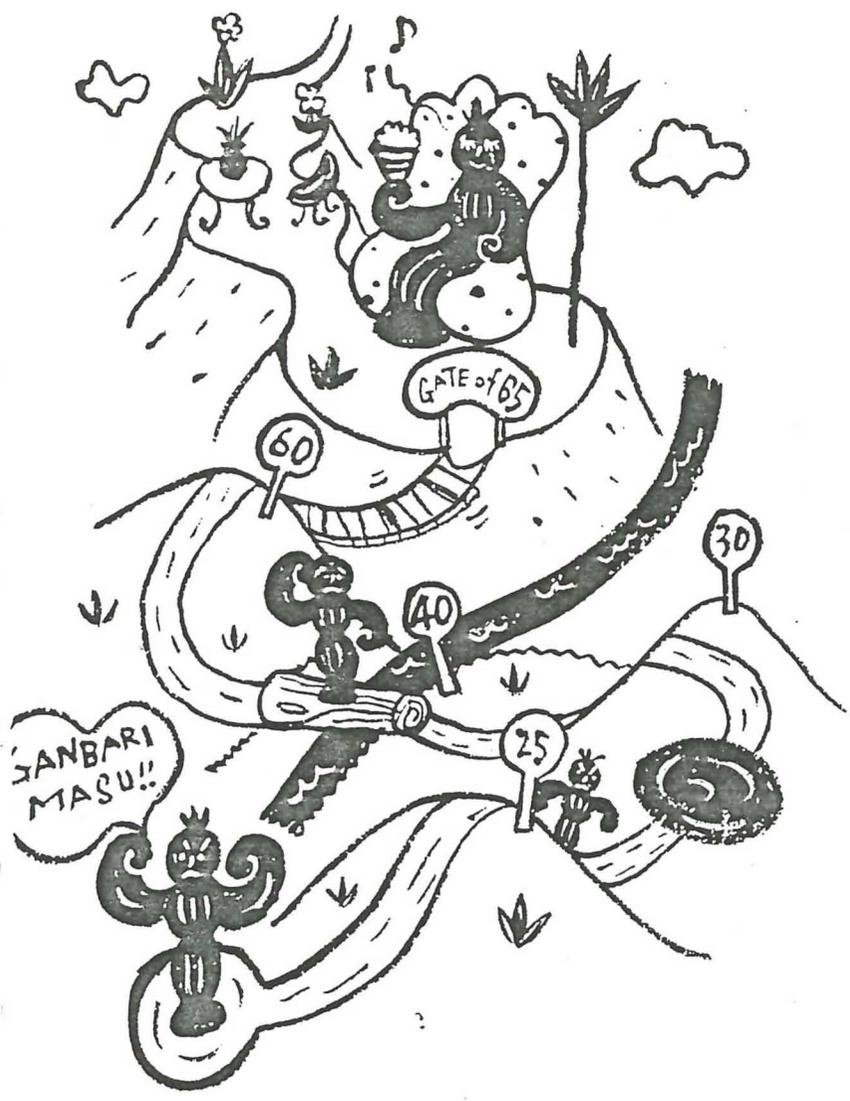
から、OL時代に天引きされた保険料も無駄にはならない。退職したら忘れないうちに、国民年金の加入手続きをしましょう。

なお、年金手帳の個人番号は、一生ついて回る。退職したあと再就職したり、会社をいくつも転々としたら職場は、必ず最初の番号に揃えておくこと。でないと、損することがあるかもしれない。

など、いろいろあって、とても複雑なので、参考書や何か一冊買って、じっくり研究してください。

●年金だけに頼れないとしたら……

老後資金にいくら必要か？ 自宅が貸家かでも大丈夫。国民年金や厚生年金からいくら貰えようかにもよ



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。著書に最近「現代思想はいま何を考えればいいのか? (勁草書房) など。……「結婚しないかもしれない」と思った女性が、まず心配するのは、老後の住居のこと。私も独身なので、身寄りのない人びとが共同で暮らす「他人家族」に、いまでも関心があります。

女性版 マネーブック

「マンガ/女性版・マネー活用ブック」(主婦と生活社) ¥930/在庫もろもろ。女性に関するお金の活用方法をマンガでわかりやすく解説

年金相談

「ひと目でわかる年金」(実務教育出版) 相対100問100答、(実務教育出版) ¥1,300/在庫もろもろ。年金に関する疑問に答えてくれる正確派の専門本

「ワーキング・ウーマンの MONEY BOOK」(KKベストセラーズ) ¥780/貯金だけでなく、税金などの節約に関することまで幅広くわかる本

●キャリア・シングルで、頑張るケース

会社勤めのあなたなら、否応なしに厚生年金に加入しているはず。このままをずっと続けられるのなら、老後の保障はまあまあ、と言えます。

ただ困るのは、国民年金の支給開始年齢が、65歳からなこと。厚生年金のほうには60歳から支給されるが、これも将来、65歳に繰り下げられるかもしれない。退職後、年金が貰えるまでの間、無収入になったら大変だ。その間の生活費は、生命保険会社の個人年金や何らかで、別に

るけれど、公的年金があまり当てにできないとしたら、足りない分を自分でやりくりするしかない。

それには民間の保険会社などの保険や年金に入ればいわけだが、これが減額やたらに種類が多い。自分にぴったりのものでないと、保険料の払い損になってしまう。

●結婚している女性の場合

子供がいれば、まず、夫の生命保険がぜひとも必要だ。働き盛りなら六千万円くらいの保障があってもいい。掛け捨ての契約にしておけば、保険料がぐんと安くなる。

土地・家屋など不動産があるからといって、安心していかない。がっぽり相続税がかかり、処分しなければならぬかもしれない。その対策のためにも、夫の生命保険は多目に掛けておくのが賢明だ。

●ずっとシングルで働くつもり

自分の生命保険は特に必要ありません。恐いのはむしろ、事故や病気、健康保険では治療費しか出ないから、入院費や生活費のために、医療保険に入ろう。若いうちは、80歳までの終身保険にも月額三千円くらいで入れるから、早めに入るといい。大手は扱っていないが、中小、外資系の保険会社に契約できる。養老保険に医療保険の特約がついたものもあるが、支払いが毎月数万円になるうえ、養老保険が満期になれば医療保険も切れてしまうから、シングル女性には不向きだ。

●退職金や財テクでコツコツ貯めた老後資金

どう活かすか。退職した時点で夫婦とも元気が、夫婦年金がいい。最初に資金を預けると、夫か妻、どちらかが生きているかぎり毎年、年金が支払われる仕組み。

長寿保険というのもある。生命保険の逆で、長生きするほど得になる。これなら独り暮らしの女性も心強い。

とりあえず、経済的にゆとりがあるなら、年金の支給開始を遅らせる手もある。たとえば、65歳からの老齢基礎年金を早く貰わないで5年間我慢すると、70歳からの給付額は、倍になる。85歳まで貰い続けるとすれば、断然このほうが有利。

●そのほかの、あの手この手もいっぱいある

要は、自分には何が大切なのか、ねらいをはっきりさせること。あれもこれも欲はった総合保険は、あまり勧められない。備えあれば憂いなし、さっそう年金の参考書を、詳しく研究するだけの値打ちはあります。

のるかそるか、ペレストロイカ バルト二国とソ連邦の危機

文・橋爪大三郎

●経済オンチのゴルバチョフ

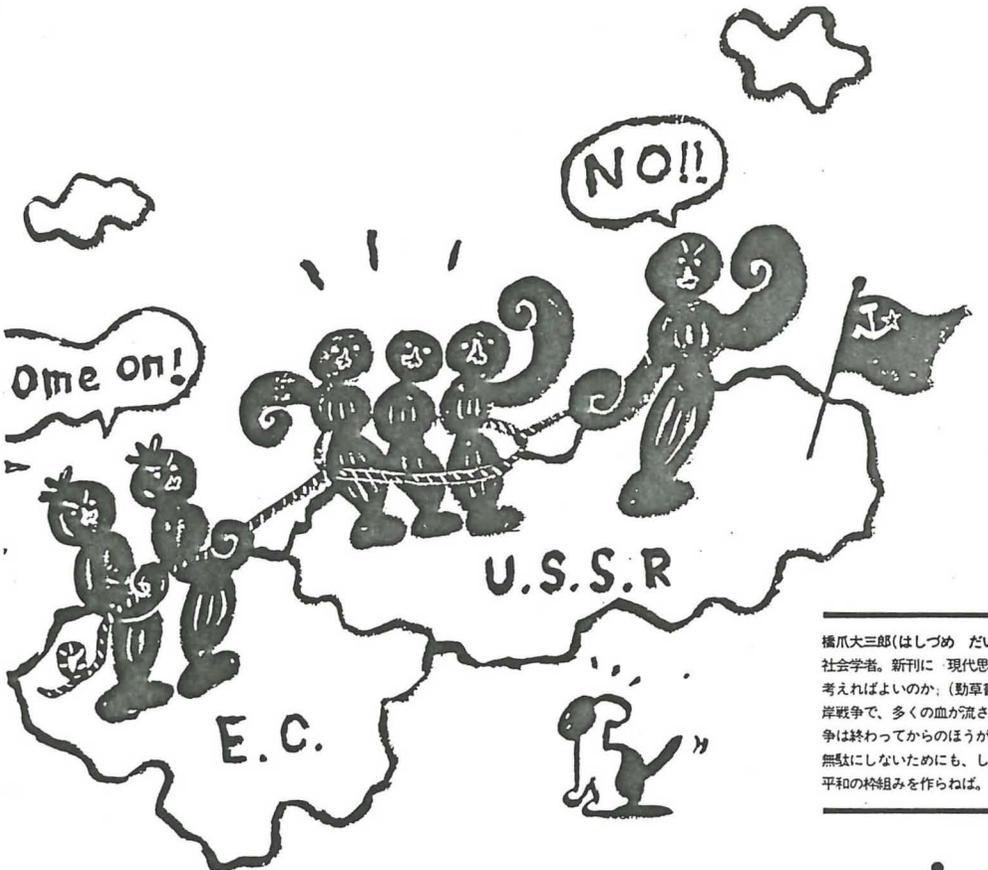
ペレストロイカの危機は、経済問題だ。でもソ連邦は、ブレジネフ書記長の時代から、停滞し切っていた。集団農場の農民はやる気がなくて、農作物が畑で腐っている。衣料品や日用品なども、質も量ともにお粗末。それでも配給と価格統制のおかげで、最低限必要な生活物資だけは、なんとか手に入った。ところがペレストロイカで、経済はかえってどん底の状態に。もう我慢の限界だと、市民は怒っている。

●急進改革派 VS 保守派のいがみ合い

ペレストロイカを成功させる以外に、ソ連を救う道はない。……エリツィンら急進改革派は、市場経済へ移行する「五百日計画」をまとめた。大統領会派のメンバーだったシャタリン博士らの作ったプランだ。国有農地を農民に払い下げ、国营企業を分割民営化、各種の補助金はたっぷり削り、価格統制も撤廃。要するに、一気に資本主義経済に突進せよという大胆な計画だ。保守派にいわせると、こんな計画、うまくいきっこない。第一に、市場経済の経験がまるでないのに、さあやってみるといわれても、農民や労働者がまっぴらだ。その間に、民族運動も騒ぎ出す。混乱して、ペレストロイカが成功する前に、ソ連邦が解体してしまおう。そんなことを言う保守派こそ、自分たちの特権を手放したくないだけじゃないかと、改革派もこれに反論。対立は深まるばかりだった。

●インフレになると、物不足になる。安い統制価格で買える国営マーケットでは、商品が棚に並んだとたんにかつり切れる。開市場では物価が上がり続け、ますます買いためをおおっている。有価、マッチ、砂糖といった生活必需品まで、めつたなことで手に入らなくなった。特に去年の夏からひどい。一九九一年一月から物価を一律に値上げする」と、アバキン副首相が「ソ連に」を告げたとき、マーケットに人波が押し寄せた。

インフレになると、物不足になる。安い統制価格で買える国営マーケットでは、商品が棚に並んだとたんにかつり切れる。開市場では物価が上がり続け、ますます買いためをおおっている。有価、マッチ、砂糖といった生活必需品まで、めつたなことで手に入らなくなった。特に去年の夏からひどい。一九九一年一月から物価を一律に値上げする」と、アバキン副首相が「ソ連に」を告げたとき、マーケットに人波が押し寄せた。



●経済危機、打開の決め手はあるか
それこれも、ゴルバチョフの改革が場当たり、中途半端なせいである。
ゴルバチョフは最初、小出しに経済改革の手を打った。

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう)
社会学者。新刊に「現代思想はいま何を考えればよいのか(勁草書房)……湾岸戦争で、多くの血が流されました。戦争は終わってからのほうが大事。犠牲は無駄にしないためにも、しっかりとした平和の枠組みを作らねば。」

●「独裁が近づいている」?

こんなことなら、昔(共産党独裁時代)のほうが良かったです。と保守派が騒ぎはじめた。これまでのソ連は、ずっと計画経済でやってきた。計画経済には、「職業選択の自由」も、企業活動の自由もない。政府の立てた計画に、みんな従わせた。だからソ連には、軍とKGBが、つぎのターゲットだ。軍は、ソ連邦の各共和国がひとり歩きをしないように、監視を利かせる。KGBは、一般市民が共産党の針に逆らわないように監視する。軍とKGBなしには、経済が歩も動かない仕組みになっていた。

●ペレストロイカは、その軍の予算をばり削り、グラスノチ(情報公開)や民主化を進めてKGBの活動をなくした。そこで、闇ブローカーが暗躍し、企業を各共和国も、中央の言うことをきかなくなった。計費経済がガタガタになったのに、市場経済はまだ軌道に乗らない。これがソ連の直面する、経済危機の正体だ。

このままでは、ソ連邦が解体する! 危機感をのらせた軍やKGBなどの保守派は、実権を取り戻そうと、ゴルバチョフを抱きかかっていた。ゴルバチョフも、軍とKGBの力を借りないといやうに考えを始めた。そこで急進改革派の動きにブレーキをかけ、軍と手を結んで、強権発動の構えで行くことにした。バルト三国を見せしめ

軍は、シエワルナゼ外相が推し進めた「新外交」にも批判的だ。ソ連邦離脱派を「裏切り者」と呼ぶし、イラクの後押しもする。大統領の命令には従うから、保守派の政策をとり入れてほしい。こうゴルバチョフにねじこんで、両者の話がついてしまった。そこで手始めに目をつけたのが、バルト三国。ソ連邦を離脱しようと、ゴルバチョフの説得も口を貸さず、

▼バルト年表

- 1918年 ●帝政時代のロシア領から独立
- 1939年 ●独ソ不可侵条約の秘密協定によりバルト三国の分割合意される
- 1940年 ●ソ連軍により占領、ソ連邦に併合
- 1988年 ●エストニア人民戦線結成(4月)
リトアニアにサユディス結成(6月)
ラトビア人民戦線結成(9月)
- 1989年 ●バルトグループ結成(5月)
三共和国を結ぶ「人間の鎖」でデモ(8月)
リトアニア共産党独立を宣言(12月)
- 1990年 ●エストニア最高会議独立を宣言(3月)
ラトビア最高会議独立を宣言(3月)
バルト共同市場を創設するための経済協力協定を三国で調印。
ソ連よりリトアニアに経済制裁(4月)
リトアニア独立宣言を凍結。ソ連経済制裁解除(7月)
- 1991年 ●「血の日曜日」ペリニウスにソ連、戦車部隊を投入

▼バルト三国

リトアニア共和国	首都 ● ビリニウス 人口 ● 364万人	リトアニア人 ● 80% ロシア人 ● 9% ポーランド人 ● 8%
ラトビア共和国	首都 ● リガ 人口 ● 265万人	ラトビア人 ● 54% ロシア人 ● 33% 白ロシア人 ● 4%
エストニア共和国	首都 ● タリン 人口 ● 156万人	エストニア人 ● 65% ロシア人 ● 28% ウクライナ人 ● 3%

手を焼いていたところだった。放置しておいたのでは、ほかの共和国にもしがつかない。

エストニア、ラトビア、リトアニアのバルト三国は、小さいながらも昔は、れつとした独立国だった。産業や貿易も盛んで、自由と繁栄を謳歌していた。バルト海への出口にあたるこの三国を、喉から手が出るほど欲しかったのがスターリン。そこで、ヒットラーと合謀して、無理やりソ連邦に「併合」してしまっただけ。西側諸国の多くはこの併合を認めなかった。それから半世紀を耐えしのんだバルト三国は、ペレストロイカに好機到来とばかり、独立の旗を高く掲げた。E.C.やアメリカも、これに声援を送った。

●米ソ関係に暗雲、北方領土もお預け

その矢先の武力介入である。世界中の国々が、ゴルバチョフ大統領に失望し、警戒感を強めている。一月に予定されていた米ソ首脳会談も、ブッシュ大統領の判断で延期になった。経済援助にもストップがかけられた。

●ゴルバチョフ大統領は四月半ばに米日、日ソ間の「懸案」を話しあう予定である。日本側はこれを機会に、北方領土を返してもらおうと期待している。

でも今回、北方領土は返って来ません。理由は、米ソ関係の悪化。アメリカが、やはりソ連は信用できないと思いついたため、日本だけ勝手にソ連と仲よくするのを歓迎しない。それには、北方領土が「未解決の問題」になっているほうが都合がいい。アメリカがうんと言わぬ限り、日ソ関係も改善できないのが、国際政治なのである。

●ペレストロイカの先行きを占う

軍部・保守派と手を結んだのは、ゴルバチョフの苦しまぎれの選択だった。これでしばらく、国内の混乱をしのげるかもしれない。しかし、民主化を求める動きを抑えなければ、西側の協力をえられなくなってしまう。ペレストロイカの成功は、半分お預けになった。

このジレンマを自ら承知でもうしようもないほど、ゴルバチョフは追い詰められている。バルト三国に続けと、独立を宣言する共和国も増えてきた。国内でも人気低迷、経済運営もいよいよ行き詰まって、数年以内に本邦の危機(ひょっとすると内乱)がやってくる。ソ連の人々がこの難局を賢明に乗り切ることを祈りたい。

上記の表は、「現代用語の基礎知識1991」(自由国民社)、「イミタス1991」(集英社)、「世界各国要覧90年版」(二宮書店)を参考に当編集部で作成したものである。

中東の戦火がやんでも、問題山積 石油から見直す、湾岸戦争

文・橋爪大三郎

湾岸戦争が終わった。イラク軍の捕虜になった米軍女性兵士、メリッサ・ラスバンリーニさん(22)も解放され、無事帰国した。

今回湾岸に派遣された米軍特務兵は、31万人あまり、そのうち32,700人が女性である。高校を卒業してすぐ、大学の学習を稼ぐため陸軍に志願、輸送部隊で任務についていたメリッサさんは、その一人だった。

戦地におもむいた夫や恋人の、帰りを待つ気持ちはどんなだろう。イラク軍や民間人にも、多数の死傷者が出た。戦争が終わってよかったけれど、こういう思いを繰り返さないで済むように、どういふ場合に戦争が起ころのか、原因をしっかりと見きわめておきたい。

石油から戦争が見えてくる。
戦争のきっかけを起こしたイラクもクウェートも、湾岸産油国。石油が出なければ、アメリカがこの場所に駆けつけることもなかったはずだ。

中東で、最初の油田が発見されたのは、一九〇九年のこと。それまで一文の値打もなかった砂だらけの砂漠が、たちまち莫大な富を産むことになった。欧米列強がこれに目をつけずにはいられない。

それまで中東を支配していたのはトルコだが、第二次大戦で負けると、これ幸いとイギリス・フランスがやって来て、勝手に採掘し、中東一帯をそっくり植民地にしてしまった。クウェートはイラクの一部だったのが、このときバラバラにされてしまった。

石油の一滴、血の一滴
百年ほど前まで、石油と言っても、石油ランプの燃料くらいしか使い道がなかった。けれども、内燃機関(エンジン)が発明されたので、事情が一変した。

日露戦争(1904-1905)の頃、軍艦は石炭を焚いて走っていた。煙がモクモク出て敵にすぐ見つかるし、スピードも遅い。煙がモクモク出て敵にすぐ見つかるし、スピードも遅くなる。英国海軍は断然、燃料を石油に切り換えることにした。おかげでドイツ海軍を、第二次大

戦でやっつけることもできたのだが、ひとつ問題は、イギリスで石油が採れないこと。だから中東の油田を、がっちり押さえておくのが至上命令になった。

石油を支配すれば、世界を支配できる。
第一次大戦でヒットラーは、いち早くルーマニアの油田を確保、いっぽうロンメル將軍の戦車隊に命じて、中東の油田地帯を奪おうとした。迎撃つづモゴメリー將軍がこれを撃破、イギリスは事なきをえたのである。

それにひきかえ、みじめだったのが日本。勝手に中国に攻め込んだので、こないだのイラクみたいに、多国籍軍で経済封鎖されてしまった。石油がなければ、艦隊大相や空戦があつてもどうしようもない。それなら、インドネシアの油田を腕すくで奪い取るしかない、無謀な戦争に突入して、あの定額ロ負けに負けてしまった。

石油あつての戦後経済
しかし、これがよかった。負けるが勝ちの見本みたいなのが、戦後の日本経済である。英仏に代わって中東を仕切るようになったアメリカから、ふんだんに原油を回してもらって、奇蹟の高成長を遂げた。発電、自動車、プラスチック……石油なしに、豊かな消費生活は考えられない。

でもわれわれは、この繁栄がどうやって支えられていたのか、舞台裏も考えてみるべきだ。

石油メジャーのやり口は、こうである。まず、適当な首長が主権をみつけて、武器弾薬や資金を提供、政権をでっち上げる。そして、石油を掘らせてもらう権利にたんまり分け前をはずす。アラブの一般民衆に何の相談もなし。民主主義とはほど遠い。クウェートはじめ、湾岸にはこうした「国家」がごまかっている。

その場しのぎ、アメリカの中東政策
これじゃあだめだ。アラブ人よ同結せよという、アラブナショナリズムや社会主義の動きも、当然盛んになる。

護と言えはソ連から援助を当ててきたのに、その手が使えなくなった。キューバみたいに、安いソ連産原油を輸入して外貨を得ていた国も、頭を抱えている。

アラブの民主化は、時代の流れ
米ソのパワー・バランスが崩れたスキを突いて、湾岸の覇権、アラブのリーダーにのし上がろうとしたのが、フセイン大統領率いるイラクだった。中東の石油を手中に取め、一気にアラブの復権を果たそうとした。

これをアメリカが黙って見ていて、と説んだフセインが甘かった。クウェート占領のニュースを聞くと、プッシュニ大統領は間髪を入れず、湾岸への派兵を決定。一切取り引きに応じないで、多国籍軍の結束を固め、クウェートを奪い返したばかりか、フセイン虎の子の大規模警備隊も、コチンバンにやっつけてしまった。

アメリカの圧倒的勝利にたいに見るけれど、歴史の針

は元に戻らない。これからは、湾岸アラブ諸国の民主化も、急速に進んでいくはずだ。

そもそもクウェートの王族みたいなひとと掘りの人びとが、石油の富を掘り占めしているのがいけない。石油メジャーの利権をバックに、砂漠に採掘して作った国家が不自然なのだ。産油国と非産油国、社会の上層の人びとと下層の人びと……。故郷を迫られて身を寄せたハレスチナ人たちが外国人労働者を安く雇って、市民権も与えないようなクウェートに、アラブの民衆は同情しなかつた。

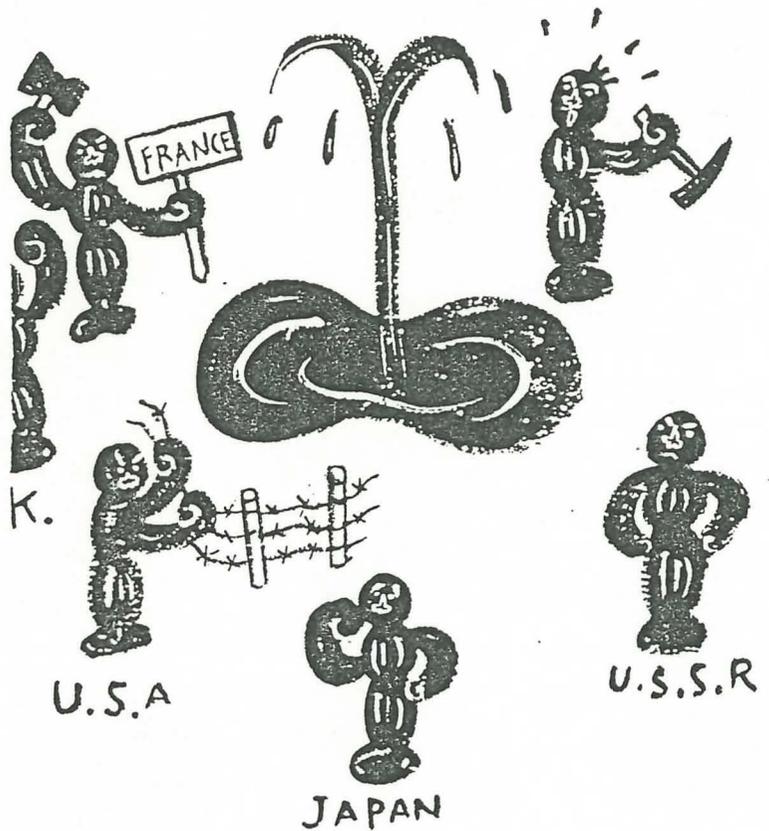
こうしてアラブ原理主義にしろ、アラブナショナリズムにしろ、こうした不公平をなそうという運動である。アメリカは、今回イラクに狙われた湾岸の国々に、戦争後も軍事基地を置くことにしたらしいが、ひと握りの特権階級に権力が集中した現在の体制が、あと何十年も保つとは思えない。

パレスチナに平和は訪れるか
もうひとつ、解決すべきなのがパレスチナ問題だ。フセインは昔普通、イスラエルにスカッド・ミサイルを何発も撃ち込んだが、イスラエルは報復をじつと我慢、アメリカに貸しをつくれた。ただ、アメリカとして、国連を縮の御旗にしてイラクを懲らした手前、同じく安保理決議を無視しているイスラエルの肩はかりもつているわけにはいかない。

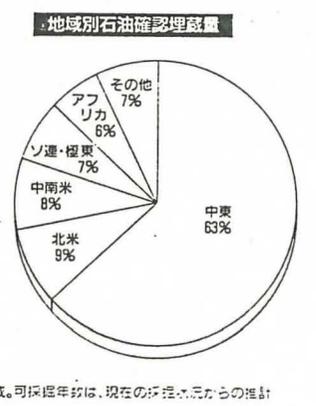
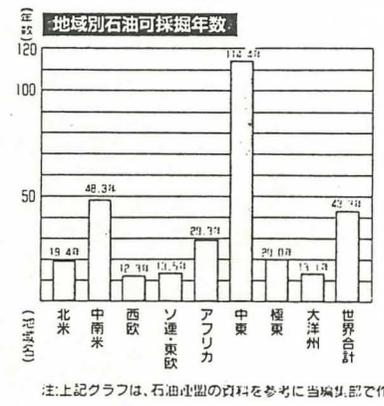
冷静に考えたら、和平の可能性はある。もともとエダヤ教徒とイスラム教徒は、パレスチナで仲よく暮らしていたのだ。

①イスラエルは領土を返還し、パレスチナ人に対する市民権を認める。②アラブ諸国はイスラエルを承認し、平和条約を結び、③そのうえで、中東東部安全保障条約(NATOみたいなもの)を結んで、アメリカ、ソ連、ECがその後援になる。こんなやり方で解決できるというのだが。

そうわかっていても、なかなかうまく行かないのが国際政治。だが、疑心暗鬼でいがみ合いを繰り返しても、この地域に将来はない。元はと言えば、欧米諸国が自分で描いた罠。日本も石油でうろうろして来たのだから、責任はある。出せる知恵を出し、必要な責任は分担し、いまままでひどい目にあってきたパレスチナに援助を惜しまず、イスラエルの安全確保にも気を配る、そういう外交ができれば、日本も一日限られるはずだ。



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。著書に「現代思想はいま何を考えればよいのか」(勁草書房)など。……調査で知床半島に行きました。オオワシやエゾジカの棲息する自然環境と、日々の生活に追われる人間社会との調和は難しいと思いました。



それでも安全? やっぱり危険? 原発はどつごう恐ろしいのか

文・橋爪大三郎

チェルノブイリの原発事故(86)には、世界中が肝を冷やした。深刻な放射能汚染のため、付近一帯はすべて立ち入り禁止。死の灰は風に吹かれて、北極を直撃し、地球をひと回りして日本にもやってきた。チェルノブイリみたいな大事故が、日本でも起こるのだろうか?

起こるかもしれない。広瀬隆さんみたいに「必ず起こる」と言えは、いすぎだけれど、油断は禁物だ。

そんな今年の2月9日、福井県美浜のところで水漏れ事故。緊急炉心冷却装置が働いた。この装置は、原子炉の暴走を喰い止める命綱。まさに危機一髪だった。

原発は、恐ろしい。それなのに増え続け、いま、日本の発電量のうち26・1%は原子力だ。

でも、怖がっているばかりでは仕方がない。そこで今回は、原発のどつごう危険なのか、そして、そんなに原発が必要なのか、よく考えることにしよう。

なぜウランが「燃える」のか

原子力発電所(略して原発)は、ウランなどの燃料を「燃やして」熱源にしている。だから火力発電所みたいなものだが、熱の出でくる仕組みが、ちとややこしい。でもここを理解しないと、原発のことを考えたことにならないので、ちよっとおぼえておきたい。

物質がみな原子でできていることは、学校で習った。原子の真ん中は、原子核(陽子と中性子が混在集まっている)で、周りを電子がぐるぐる回っている。陽子と中性子を真ん中に集めているのが、原子力エネルギーだ。

ところで、原子のなかには、不安定で、自然に壊れて別の原子に変わってしまうものがある。たとえば、キュリー夫人が一八九八年に見つけたラジウム。ウランもその仲間だ。天然のウランは、大部分が安定なウラン238だが、約0・7%、ウラン235(放射性同位元素)を含んでいて、放射線を出しながら壊れている。このウラン235に、中性子を当ててやると、原子核

が、ついに砕け、数個の中性子と大きなエネルギー(熱)が出て来る。これを核分裂という。砕けたからは、ストロンチウム90やセシウム137など、人体に有害な放射性物質(死の灰)となる。

原子炉の仕組み

核分裂を応用したのが、原子炉。天然ウランのなかのウラン235を、70~90%に濃縮し、適量な大きさの塊にすると、核分裂の爆発的な連鎖反応を起こせる。広島原爆はこのタイプだった。中性子による核分裂が発見されたのは、一九三八年だが、それからわずか七年後に原爆が完成してしまった。

いつへんにエネルギーを放出したのでは、爆弾になってしまう。少しずつエネルギーを取り出す方法はないか。それを考えたのが、原子炉だ。

原子炉にもいろいろあるが、日本の原発は、そのうち軽水炉というタイプ。軽水(つまり、ふつうの水)を冷却と減速に使う。その原理を簡単に言うと、天然ウランのなかのウラン235を3%に濃縮する。これを焼き固めて細い棒にし、表面を薄い金属で覆う。さらにこれを束ねて、燃料棒を作る。これを原子炉の中心(炉心)にびっしり並べて、核分裂を起させるわけだ。核分裂が起ると、中性子が出てくる。これが燃料に吸収されると、また核分裂が起る。このとき、燃料棒を水に浸して、中性子のスピードを少し遅くしてやると、吸収が起りやすくなる。ついでにこの水をぐるぐる循環させると、炉心を冷却しながら熱を取り出せる。この水(百度、70~150気圧)を、次冷却水という。

こんな大事故が起った、大騒ぎ

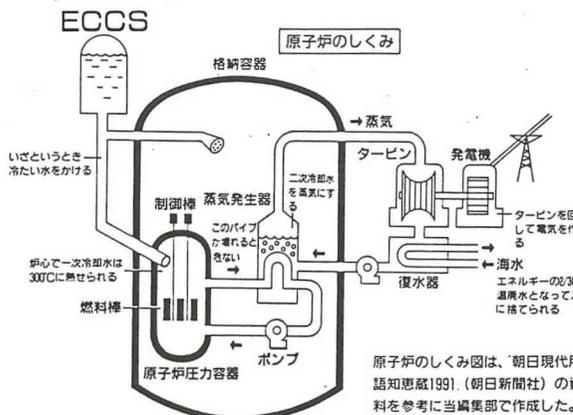
炉心の燃料棒の中には、燃えカスの死の灰がたまっていく。また、中性子を浴びたウラン238(普通のウラ

ン)も、このように事故は、事前に防げると言われてきた。一次冷却水を通すパイプが壊れかかると、ひびが入ったり、冷却水に放射能が漏れ出たりして、検査でチェックできるといふことになった。けれども突然、パイプがぼろぼろ折れる場合もある(キロンチン破断)。アメリカでもそういう事故があったし、今度の美浜もさうだった。

こういう万一の場合に備えて、日本の原発には緊急炉心冷却装置(ECCS)がついている。空焚き状態になり、炉心が過熱して危険な状態になると、大車の水をかけて温度を下げる。この装置がちゃんと動かないと、私は心配していたが、今回、美浜ではいちおう役に立っていないようでした。



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。著書に「現代思想はいま何を考えればよいのか」(朝倉書房)など。……7月に、友人らと一緒に「試されることば—21世紀を生き始めるために—」(JICC出版局)を出します、よろしく。



原子炉のしくみ図は、「朝日現代用語知恵蔵1991」(朝日新聞社)の資料を参考に当編集部で作成した。

これは、アルトニウムという毒性の高い放射性元素に変わっていく。だから炉心には、放射能がきつりだ。この放射能が、冷却水や小さな隙間を伝って、少しずつ漏れ出してくる。ただし、その量は微々たるもの。事故さえなければ、そんなに心配することはない。では、どんな事故を心配すればいいのか? やっぱり、それは、空焚きによる原子炉の暴走だ。

原子炉の暴走と聞くと、原爆みたいに爆発するのかもしれない。そんな心配はない。核燃料は3%に濃縮しただけだから、爆発的な連鎖反応は起きない。いちばん怖いのは、炉心を冷やしている水(次冷却水)が、何かの理由でなくなってしまうこと。水が減速材がなくなると、核分裂のものは起きにくくなるのだ。

でも、どんな場合にも、必ずこううまく行くかという

と、よく分かっている。原子炉をわざわざ空焚きして、実験するわけにはいかないからである。実験中に暴走して、チェルノブイリみたいなことになったら大変。そこで代わりに、コンピューターで計算してみても、たぶん大丈夫だろう、ということになっているだけなのである。

原発に反対? それとも賛成?

こんなに問題が多いなら、やめてしまえ。となりそうだが、原発には利点もある。まず、石油や石炭などの化石燃料と違って、炭酸ガスが出ない。値段もまあまあだから、①大事故が起らない、②廃棄物がちゃんと処理できる、③核燃料サイクルの技術が完成する、のならば、なかなかうまいエネルギー源だといえる。

電力会社はいろいろ空焚きを弾いたうえで、原発建設を進めてきた。それなら、地元住民や一般国民の同意を得るべきだろう。ところが、「とにかく安全」ですと繰り返すだけで、原発のどつごう危険か、きちんと説明してこなかった。だから人びとも「やっぱり危険」だと思っ

た。これはいつまでたっても水かけ論だ。

責任は会社側にあるだろう。重要なデータは全部電力会社やメーカーが握っている。それを公開し、こういうわけだから、まず大丈夫です、と説得すべきだ。

原発には、二重、三重の安全装置があつて、滅多なことでは事故が起らないようになっている。ただ、それでも事故は起る。そして、この輪には、大事故になる可能性がある。「絶対安全」とは言えないのだ。

原発の是非を最後に決めるのは、ひとりひとりの国民である。そんなわずかな危険なら、原発があつていい。いや、わずかな危険でも、原発はなくていい。どちらにしても、責任がともなう。電気をじゃんじゃん使っているが、何となく原発に反対、なんていうのは無責任だ。

いろいろ考えても、やっぱり自然 夫婦別姓は、時代の流れです

文・橋爪大三郎

1991-4
6/13



このあいだ、新婚の丁字さんがフリフリしていた。
— 彼つたら新婦を出すのに、ひとりで相談なしなのよ。僕の苗字でもいいかい、くらい聞いてくれれば、ウンと言つたりしていたのに、夫の姓で「だり前」というあの態度、セクタイ許せないと思わないか！
彼の姓に変わるの待ち切れない、という女性も、もちろんいる。でも正直な話、苗字が変わるって、かなり面倒なことなのだ。まず、社会保険や住民票、運転免許証……と、書き換える手続きでうんざり。おまけに、結婚した友達の名前だって、いちいち覚え直さなければならぬ。こんな必要、あるんだろうか？
結婚しても、別々の姓のままでいいという制度を、夫婦別姓という。今月のテーマは、夫婦別姓です。
夫婦は同性、なんて、だれが決めた？

● 外国人の夫婦は……夫又は妻の氏を称する（民法第七五〇条）ことに決まっている。日本中がそうだから、なにか当たり前みたいな感じがする。
でもよく考えてみると、これはおかしい。江戸時代まで、大部分の日本人には、苗字なんてなかった。だから「夫婦は同性」という常識もなかった。文明開化になって身分の違いをなくしたついでに、外国のまねをして、苗字をつけることにしただけである。
● 外国ではむしろ、別姓が主流

では外国はみんな、夫婦同性なのか？
英米や、ドイツ、フランスなど、西欧の国々は確かに夫婦同性のところが多い。ただそれは、習慣でそうなっているだけ。アメリカでも、いつかの副大統領候補フェラーロ女史みたいに、夫と別姓だつて構わない。ところが明治政府はそれを、法律で一律に義務づけてしまった。ところが中世にさかのぼると、ヨーロッパでも苗字がなかった。たとえば、レオナルド・ダ・ビンチは「ビンチ村のレオナルド」という意味である。姓がなくて不便だったかという、父親の名前がその代わりをした。ジョンの息子のだれそれ、みたいに呼ぶ。これが後で「ジ

ョンソン」という姓になった。
アラブ世界では今でも、エジプトのように姓のない国がある。役場の台帳には祖父、父、本人の名前を記入するだけ。必要なら、地名や称号などをつけ加えて区別するから、日常会話にはない。父系社会（父親の系譜を通じて集団をつくる）では、これで十分なのだ。
● 中国や韓国も、父系社会である。父方の祖先を同じくする人びとが集まる。しかも、同じ姓を名乗る。
この原理を徹底すると、夫婦別姓になる。たとえば韓国では、結婚しても「夫」と、男性も女性も生涯、生まれた時の姓のまま。中国もだいたい同じだ。

● 戸籍があるから、話がややこしい
というふうには、調べてみると、日本みたいに夫婦が同じ姓になることを法律で強制するなんていう国は、世界広しといえども日本だけなのである。
何でこうなったかという、日本には「戸籍」があるから、明治政府のころから戸籍制度が、形を変えて、今も生き残っている。
戸籍って、何だろう？

①ある人間「戸籍事項」を中心に、②その子供や配偶者を記録し、③同じ姓を名乗らせる——という制度を「戸籍」という。外国の制度が、本人に必要なことだけを証明するもの外に比べて、とても「封建的」だ。
日本人は全員、戸籍に載っている。と言うより、戸籍に載っていないのが日本人なのである。（外国人には戸籍がないから、そのかわりに外国人登録をさせる。戸籍は結婚や親子関係の記録や、国籍の証明を一括くたにしたものなので、話ややこしくなっている。
● 通称でいくか、「事実婚」でいくか
こんな戸籍なんかないほうがいいと私は思うが、いちおうその存在を認めると、どこが不都合か。
「結婚届」を出した人は覚えているでしょうけれど、結婚してから、夫／妻のどちらの氏を選ぶか、印をつけ

る欄がある。これを選ばないと、結婚届を出せない仕組みになっている。しかも実際に「旧姓〇〇」になるのは99%近くが女性、あまりにも不平等と言わなければならぬ。
では、どうしても、自分の名前を変えたくなければどうするか？
それには、二通りの方法しかない。ひとつは、結婚届を出してから、ふだんは旧姓のままで通すこと。もうひとつは、結婚届なんか出すのをやめてしまつこと。前者を「通称派」、後者を「事実婚派」という。
でも、想像がつくと思うけれども、どちらもかなりの風当たりを覚悟しなければならぬ。
通称派で行く場合、勤め先などが、通称の使用をどこまで認めてくれるかです問題。旧姓のままでよろしいという、もの分りのよい職場も増えている半面、戸籍名でないことをいふところもある。それに、いちいち戸籍名と通称を使いわけるのは煩雑だ。
事実婚で行く場合、実態は限りなく「結婚」に近くても、戸籍は他人でないならばならない。税金が余計にかかるとし（配偶者控除や相続、子供は非嫡出子の扱いになるし、公営住宅への入居もままならないなど）、踏んだり蹴つたりだ。これをかいくぐるには、形の上で結婚／離婚を繰り返す「ベーパー離婚」しか手がない。
でも、そこまでしても、自分の名前、ひいては自分の人格を大切にしたいという女性が増えている。

● 「夫婦別姓選択制」とは
夫婦同性を定めている法律を、ちよつと変えさせれば、だれでも任意で夫婦別姓を名乗れるはずだ。
弁護士の高橋三郎さんたちの提案によると、民法第七五〇条を改正して、夫および妻は、夫又は妻の氏を称することができる」とすべし（「楽しむる」夫婦別姓166頁）。つまり、結婚しても旧姓のままでもいいことにするのだ。もちろん今までどおり結婚後に、夫（妻）の姓に変わってもいい。これを「夫婦別姓選択制」という。

夫婦が別姓の場合、子供の姓をどうするか問題になる。これにはいろいろ提案があるが、夫が妻の姓で出生届を出し、15〜20歳の間に本人の意思で、もう一方に変わることもできる、と決めるのが現実的だろう。
● 各種の世論調査によると、夫婦別姓選択制に賛成の人がほとんど増えている。特に都市部の女性は、二人一人が別姓に賛成だという。この声は無視できない。
● ひと足先に、選択制
遅まきながら、政府も夫婦別姓の研究を始めたらしいが、ひと足先にその権利を獲得している夫婦もいる。しばらく前まで、外国人と結婚すれば、夫婦は別姓のままだった。外国人に戸籍がないからだ。一九八四年からは、戸籍法の一部改正されて、外国人である夫（妻）の姓を名乗ってもいいことになった。ただしローマ字はだめなので、たとえばカタカナで「ブッシュエチ子」みたいな感じになるが、選択の幅は広がった。
外国人と結婚した場合に許されることだが、どうして日本人同士だと許されないのか。合理的な理由なんか、ひとつもない。

● 一日も早く、夫婦別姓を！
最後に、夫婦同性に賛成する人たちの言い分も、いちおう聞いておこう。
よく言われるのは、家族の一体感。そして、日本の伝統や、子供の姓の決め方がすっきりしなくなることも、理由にあげられる。
だが、まず夫婦同性が日本の伝統だなんて、真つ赤な嘘である。そんな気がするのは、明治民法のころからた家庭制度の呪縛のせいだ。それに、苗字が同じでない、家族の一体感が損なわれるという人も変である。そんなことを言ったら、韓国や中国の人が怒るだろう。子供の姓にしろ、外国の例を参考に、いくらか解決の方法がある。それよりも、私たちが自身の名前を大切にすることのほうが、よっぽど大事ではないだろうか。名前のつけ方やよび方は、私たちが暮らしていくのに便利にように考え出した土の産物。不都合が生じたら、どう変えたってよいはずだ。

日常のことで、これがおかしいと思つたら、だれがどういう理由でそういう仕組みを作つたのか、じっくり調べてみる。そのうえで、どこをどう改めたいか、いかに考える。必要なら、法律だって作り変える。そうやって前向きに進んでいくのが、ル・クル時代の生き方だと思います。

橋爪大三郎
はしづめ だいさぶろう)
社会学者。7月に友人たちと
共著で『試されることば』(UI
CC出版局)を出版します。…
……知り合いの女性に、事実
婚を結んでいる人が何人もい
ます。苦労があるでしょうが
がんばってほしい。

届け出関係	法的届け出義務	備考
戸籍	あり	婚姻により夫、妻どちらか一方の姓を選択し名乗ることが義務づけられている
住民票	なし	法的に戸籍名である必要はないが実際は戸籍の変更が役所内で自動的に連絡処理され戸籍名に
印鑑登録証明書	なし	住民票氏名で作成のため戸籍名で登録されるが登録印鑑が女性でなく名前なら印鑑は替えずにすむ
住民税	なし	住民票氏名で作成されるので住民票の自動的変更にもない運動して変更
税金	なし	通称で確定申告することもできる。給与所得者は通称で源泉徴収票も発行してもらえる
運転免許証	なし	変更を速やかに届け出する記載事項義務に反すが有効期限内はそのままで。更新時住所の変更がなければ住民票の提示は必要ない。パスポートについては旧姓併記も可能（外務省で審査）
パスポート	なし	④が廃止され（88）口座開設に身元確認資料はいらぬので通称使用して平気
銀行口座	なし	自分名義でカードと引き落とし口座名義が同じなら問題ないが通称では夫の家族会員になれない
クレジットカード	なし	通称でもよいはずだが会社による。指針を設けている会社も。公務員で辞令が通称で出てる例も
健康保険証	なし	電話をひくのは通称で可能。電話の請求書の宛名、電話帳の掲載、自動振替口座名義も通称で
身分証明書	なし	市役所、区役所などが発行するが、本人の申し出のみで通称で交付も可能
電話・郵便	なし	
母子手帳	なし	

注：上記の表は、「楽しむる夫婦別姓」(明石書店)ほかを参考に当編集部で作成したものの。夫婦別姓についての調査は多いがもっと実践について知りた方には「楽しむる夫婦別姓」を特におすすめる。事実婚、通称婚などのケースが数多く出ており、また傾向と対策が充実している

こんなものがあるから、政治が悪くなる 政界を牛耳る、自民党、派閥って何？

文・橋爪大三郎

自民党の安倍晋太郎さんがじくなくなった。

だいぶ前から、相が悪いみたいという噂があった。ウクライナをやってた私の友人が、選挙カーで安倍さんと乗り合わせた、あんまり使わせてびびり。背広なんか夕ボホなのよ、と教えてくれた。

健康なら首相の座を約束されていた人。最後まで復活へ決意を燃やしたが、果たせなかった。主を失った安倍派が行風の目になって、秋の政局は荒れそう。

● 解教しても、派閥がなくなると思えない

憲法や法律のどこを讀んでも、「政党に派閥を置くな」と書いてない。それなのに、現実の政治を動かしているのは、自民党の派閥だ。大臣のポストも、派閥単位で割り振るようになってる。派閥均衡大事。

ハバツ？ ナンデスカ？ ……改めて外国の人に聞かれると、説明に困る。どう考えても、民主主義と派閥は関係ない。もちろん外国に、こんなものはない。

● 派閥ができる、二つの理由

まず、派閥がないと、自民党の代議士は争奪できない。いまの衆議院みたいに、一つの選挙区から3〜5名の議員を選ぶのを、中選挙区制という。与党の自民党からは当然、何人も候補者が立候補する。だから、激しい足の引つ張り合い。党は公認を決めるだけで、選挙運動にはノータッチだから、候補者は自分の後援会を作って、投票を頼んで回らなければならない。うんと金がかかる。そこで親分を見つけて、政治資金を分けてもらう。こんな親分下分のつながりが東になったのが、派閥だ。

い。塚元運輸相が会長に就任して、三塚派が誕生した。これを不満とする同派の実力者、加藤政調会長は最後まで抵抗し、しこりを残した。今後も竹下派と同派関係を続けるにせよ、かつてのようなまとまりはなくなった。

● 金丸さんは、なぜ実力者なのか

ところで、海部総裁の任期は、この秋まで。そろそろ後継総裁を決めたいといけない。ここでもカキを握るのは、最大派閥の竹下派である。なかでも、金丸さんの動きが注目を集めている。

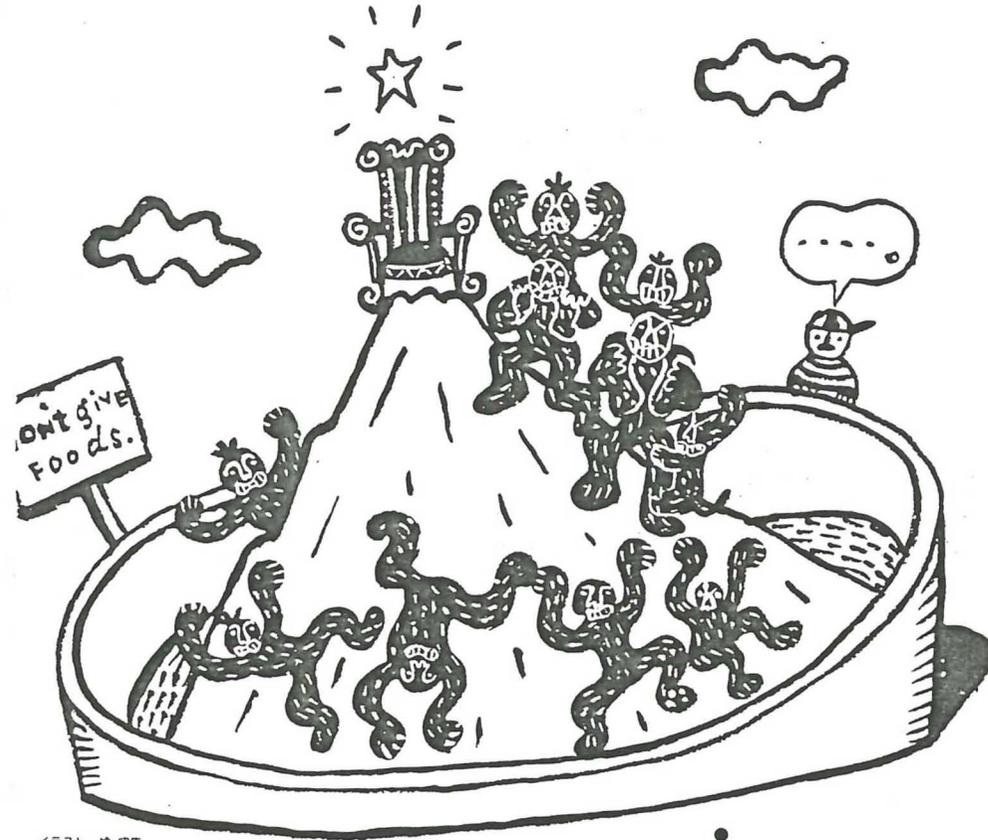


イラスト 橋爪

第二に、自民党の総裁（というところは内閣総理大臣）を決める際に、派閥めきにはどうにもならない。

ふだん自分の面倒をみている派閥の親分は、みん首相の座を狙っている。そこでいき総裁選になると、自分の議員たちを総動員、自分の票をかき集める。自分たちも、ふだんの恩返しにと走り回る。

● 大派閥が適合すれば、悪いものなし

ところで自民党の派閥は、だいたい五つくらいあるから、自分のところだけでは、総理・総裁の椅子に届かない。よその派閥の協力が必須だ。そこでどの派閥も、ふだんから、よその派閥と仲よくしておく。赤坂の料亭で飲んだり、ゴルフをしたりして顔を近づけておくのも、政治活動のうちである。

そんなわけで、大派閥が、つ、がつちり手を握れば、自民党を支配できてしまう。かつて、田中角栄さんの率いる田中派は、大派閥を同盟して、田中政權、大平政權を生み出した。はじき出された田中派は、なかなか首相になれなくて、選挙の角筋勝負が10年も続いた。

田中派の離れがけをしなが、これを見ていたのが竹下さん。創政会を作って田中派を乗っ取ったあと、安倍派（吉田の福田派）と同盟することにした（安倍連立）。はじき出された宮沢喜一さん（大平派の後継者）は、おかげで、いつまでも首相になれないでいる。

竹下首相は、つぎを安倍さんに譲る予定だった。ところが、そこへ起こったリクルート事件のおかげで、安倍さんほかの派閥のリクルートも首相になれなくなってしまった。そこでやむなく、宇野さんや海部さんと時間をつないでいた矢先、安倍さんが死んでしまった。

親分が死んだら、派閥はどうなるのか？ 跡目がない限り決まらなければ、「集団拒絶体制」で行くしかないが、うまく行かずに分裂することが多い。自派の派閥の場合、すつたもんだのあけく、竹下元首相と近

● 竹下さんが田中派をとり出した時、竹下さんの肩をもったのが、吉田の金丸さん。田中元首相に義理を立てた。際々さんみたいな人は、一部にとどまった。こうして派内をとりまとめた金丸さんは、竹下政権誕生の功労者として、自民党全体に敬意を寄せている。だから党内の各派閥も、社会党などの野党も、まず金丸さんに話を通すことになっている。

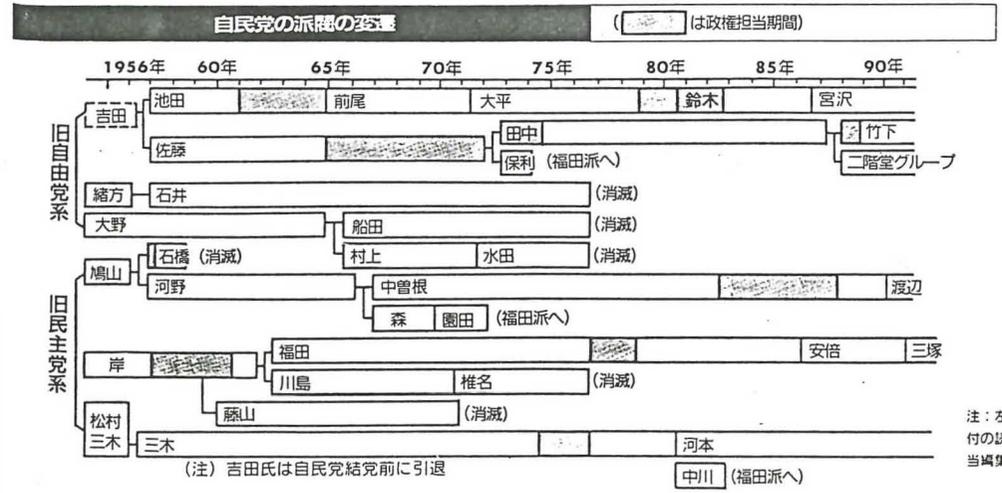
ところが最近、竹下さんと金丸さんの間がしっくり行っていないらしい。金丸さんは、竹下派の若手の大物、小沢幹事長の後押しをしている。竹下さんは面白くない。小沢さんが将来の総裁候補だとしても、まだ19歳。十年早いのではないかと思っている。

そんな折、米誌「ニューズウィーク」が、次の首相は竹下さんで決まり」という記事を掲げた。これは竹下政権の再登場を願う、米政府のサインかも知れない。これですんなり竹下さんの復活、とは行くまいが、ブッシュ政権が海部首相にうんざりしているのは確かだ。

● アメリカは、派閥政治にあきれている

もともと海部さんが首相になれたのは、政治力がなかったから。ちっぽけな河本派の、親分見習いの海部さんには、竹下派からすると、当然うんざりなわけだが、この辺のことは、外国には全然理解できない。湾岸戦争の時アメリカは、早く何とかしろと海部首相をせつづいたのだが、ちががかなかった。根回しがすんで、与野

注：左の表は、平成3年6月21日付の読売新聞の記事資料を参考に当編集部で作成したものです



橋爪大三郎(はしづめ たいさぶろう) 社会学者。仏教の言説戦略などの著者。……『悪魔の詩』を翻訳した五十嵐一人が何者かに殺されました。尊敬していたイスラム学者だっただけに残念です。こういうことがあってはならない。

● この秋、何が起ることも不思議でない

いっぽう竹下さんとしては、竹下派の数の力にものをいわせて、もう一度首相に返り咲きたい。それにはまず、塚さんにテコ入れさせて、塚派を結束させる。そして、首相の座をちらつかせて、塚派、渡辺派を主流派に取りこむ。後は、ほかの首相候補の芽を断つて、政権が転がりこんで来るのをじっくり待つ。……国民がリクルートの件を忘れてくれれば、これでOKだ。

これ以外にもいろんな構想や思惑が入り乱れ、何が起るかわからないのが、秋の政局だ。これまでの常識はまるで通用しない。いやまったく、目が離せません。

株を買わないあなたも必読 ぬれ手にアワ!?

文・橋爪大三郎

バブル経済って何?

一年前、値上がり確実と言われて、虎の子の貯金をはたいて株を買ったOさんのPさんが、ここをかくしている。一九八九年の終り、日経平均3万9千円に迫っていた株価が半年後には2万5千円にまで大暴落。日本中で何百兆円が消し飛んでしまった。Pさんの株も、半分に値下がりした。

あんまり気の毒だから、損した分の理め合わせをしましょう。証券会社がそういうことをするのが、損失補填。Pさんはニコリかもしないが、れつとした不法行為だ。第一、それは、株なんかには目もくれない。ボリーナスをビッグワイドみたいな元本保証の証券に預けている。堅実なあなたのような立場がない。でも、大口投資家相手ならそんなインチキがまかり通っているのが、いまの証券業界だ。バブルのはじけたついでに、そんな困った舞台裏も明らかになっている。

● バブル経済のからくり

まず、バブルがふくれる仕組みを理解しよう。'86年の終りころから、地価高騰が始まった。都心で火がつき、瞬く間に地方都市にも波及。地価が、一気に数倍にはね上がった。そのときは株価が、ウナギのほりに値を伸ばした。地価と株価の「双子のバブル」だ。

値上がりを見越してみんなが買いたがるので、とんでもない高値になることを、バブルという。バブルだとみんなが気づいてしまえば、たちまち崩壊する。バブルは経済に果敢うがんなようなもの。ガンが大きくなるには、差分(資金)がある。'86年ころの日本は極端な資金あまりで、バブルにうってつけの環境だった。

もともと日本は、土地の値段が高い。しかも、一度上がった下がらない。その間に税金は安いので、日本の企業は金があふると、とりあえず土地を買って置ける。それを担保に、銀行から金も借りられるし、値上りも期待できる。有利な投資なのだ。だから、金利が下がると、土地はすぐ値上がりする。その仕組みはこうだ。まず、土地を担保に、銀行から企

業が金を借りる。そして土地を買う。すると土地が値上がりする。値上がりした土地を担保に、今度はもっと沢山借金をして土地を買う。これの繰り返しがバブルだ。はすみがつくと止まらない。調子に乗って貸しまくった銀行も、共犯である。

金利が下がれば、株価は上がる。土地だけでなく、株も同じ仕組みで値上がりする。日本の企業は、互いに株式を持ちあつていて、場合が多い。A社がB社の、B社がA社の株を所有することにすれば、株主総会の時「ちやこちや」われなくすむし、資金があくても会社を大きくできる。

企業は、こういう株をなかなか手放さないが、余分な資金があれば、もっと買いたいと思つている。数が限られていて、みんなが欲しがるところが、土地と同じだ。株が値上がりすれば、それを担保に資金を調達することもできる。金利が下がって、借金がしやすくなった'80年代後半、企業は本業を忘れて、金が金を産む「財テク」マネーゲームに熱中した。

● レーガンミックスと「双子の赤字」

ではなぜその当時、日本の金利がそんなに(公定歩合2.5%)下がったのだろうか?

何を隠そう、これはアメリカ経済の尻ぬぐいのため。「双子の赤字」に苦しむアメリカを助けようと、日本は極端な低金利政策をとらなければならなかった。

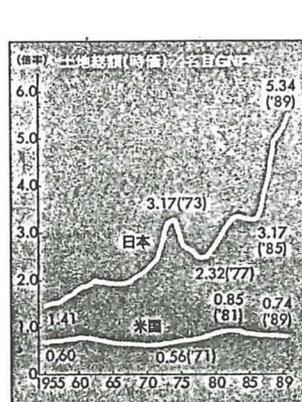
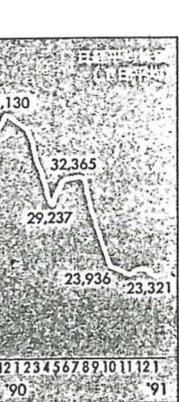
'81年に登場したレーガン大統領は、強いアメリカを復活させるため、思い切った減税と軍備増強を行った。歳入は減るのに歳出は増えるから、当然財政赤字(毎年二千億)程度。また、減税の効果で消費が加熱したから、輸入が増えて貿易収支も赤字が続いた(毎年一千億)程度。これが双子の赤字だ。

この赤字を穴埋めしたのが、日本。大蔵省の音頭で毎年、せっせとアメリカの国債を買って、貿易収支の赤字をすっきり吐き出した。ところで、アメリカの国債をじゃんじゃん買っている

● 国内にバブル経済を産み落としてしまった。

バブルがはじけても、超大型景気はつづく。国内になるとは、日本製品が外国でそれだけ高い値段になるということ。ふつうなら輸出が落ちこむ。だが、最近の日本製品は、少々値段が高くても、品質で売れるハイテク製品だからしばらくすると、またまた貿易黒字が増えてきた。

こういうわけで、プラザ合意のあとといったん、円高不況になった日本経済だが、すぐ持ち直し、それからずっと好況が続いている。今年の8月にはついに、'60年代後半の「いざなぎ景気」の、57ヶ月に並んだ。バブル前



注: この二つのグラフは、『週刊エコノミスト』'91.4.29号(毎日新聞社)中の参考資料をもとに当編集部で作成したものです。



The story of bubbles.

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)などの著者。……今年の12月、真珠湾攻撃(日米開戦)から半世紀です。アメリカと対決するのは愚かですが、言うことを聞かばかりでもため。まず、アメリカをもっと研究することから始めよう。

● 経済はアメリカのアキレス腱

ところが因るのは、日本のバブル経済が解消してしまつた。アメリカが資金不足になって、今度こそ赤字が穴埋めできなくなつてしまふかもしれないのだ。

まだそれが目立たないのは、湾岸戦争のおかげ。金もないのに戦争を始めたアメリカは、戦費と称して、日本やドイツ、湾岸の産油国から540億もの資金をかき集めた。こんなやり方は前代未聞のこと。戦争はすぐ終わったので、実際にかかった経費は100億に満たないとも言う。つまり、戦争でまる儲けしたのがアメリカだ。でも、こういううまい話はそうそうないから、来年から、アメリカ経済の危機は深まるだろう。

● アメリカはなぜ、そんなに資金が足りないのか?

それは何と云っても、金づかいが荒いせい。日本人はせっせと働き、貯蓄率は8%。それを銀行が、投資に回す。アメリカの場合、貯蓄率がたった3%なので、投資に回す資金が慢性的に不足している。ここを何とかしないと、アメリカ経済は立ち直らない。湾岸戦争に勝ったアメリカは、大団に返り咲いたが、肝心の財布が空っぽだ。日本経済をあてにしないと、実はずっといけない。21世紀まで10年間、つきあいのむずかしい、やつぱい日本関係の時代になりそうだ。

とうとうソ連共産党も解体! ソ連がなくなる!! 激動。ヘレストロイカ

文・橋爪大三郎

8月19日「ゴルバチョフ大統領失脚」のニュースが電撃のように世界を駆けめぐった。

その後の経過は、ご存じのとおり、国家非常事態委員会「クーデター」は、たった一日で失敗した。ゴルバチョフが、軟禁されていたクリミア半島の別荘から戻って来たら、エリツィン大統領が国民的英雄になっていた。ソ連邦は、このまま地獄から消えてしまうのか? と人底経済に立ち向うの勇気はあるか? 今後は、緊急特命「ヘレストロイカ」の明日を占う。今後は、緊急特命「ヘレストロイカ」の明日を占う。今後は、緊急特命「ヘレストロイカ」の明日を占う。

●お粗末だったクーデター
舞台裏がわかると、保守派のクーデターが成功しなかったのは当たり前だった。

クーデターとは、非合法に政権を奪うこと(強盗みたいなもの)だから、有無を言わず、すばやくやるのがコツである。それには、1.重要人物を残す連捕し、2.マスコミ、通信をシャットアウト、3.軍隊も味方につけなければならぬ。これが、クーデターのイロハだ。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
エリツィン大統領は、ロシア共和国最高会議のビル(通称ホワイトハウス)に陣どって、プツィン大統領に応援を頼む電話をかけた。バルコニーから市民に演説したりして、それをくぐぐが中継するなんて、こんな間抜けなクーデター、聞いたことがない。

●同じ大に手を噛まれたゴルバチョフ
大酒飲みでヤナーエフ副大統領、心臓病で入院したハプロフ首相、国家非常事態委員会の足並みもバラバラだった。政権をとって何をやるのか、青写真もなかった。彼らは、元ほといえは、ゴルバチョフ大統領に引き立てられた保守派の面々。改革派が強くなりすぎないよう、あわてて中央のポストに座らせられた人びとだ。その彼らが正体をあらわして、新連邦条約の調印にストップをかけようとしたのが、今回のクーデターである。

最初彼らは、ゴルビーを抱き込もうとした。それがうまくいかないと分かって、仕方なしにクーデターを始め

た。要するに、読みが甘かったのだ。

ただし、昔だったら、この程度のスキャン計画でも、けっこう成功したのである。

1961年10月、黒海で停戦中のフルシチョフ共産党書記長は、突然解任を申し渡された。軍や党の大幅な改革を進めようとして、部下に裏切られたのだ。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
各共和国も、ソ連邦の言うことを聞かなくなった。特にロシア共和国には、逆巻で選ばれたエリツィン大統領が、んぼっている。彼をひきずり降ろせば、ロシア共和国を敵に回すことになる。そこまで踏み切れないで、くすくすしているうちに、クーデターは腰砕けになってしまった。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
クーデター、味も味も譲らず、体を張って民主主義を守ったのは、エリツィン大統領だ。彼はあくまでも、ゴルバチョフ大統領の復権を要求、いざとなったら、国外に命を預けて作戦も、闘い続けると言った。大勢の市民がこれにこたえ、徹夜でバリケードを守った。ヘレストロイカで生まれた民間企業も、エリツィンを断固支持。モスクワのマクドナルドは、焼き立てのハンバーガーをどっさり差し入れた。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
プツィン大統領もこれを見て、さっそく助太刀、憲法を逸脱している」と国家非常事態委員会を非難する。いっほう、エリツィン大統領の勇気をほめ讃えた。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
プツィン大統領が、こまごま本気になって、ゴルバチョフやエリツィンに介入したのは、湾岸戦争のあとでさっさと確立させた「新世界秩序」が、台なしになりか

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
場を交渉できるからだ。ソ連邦はいずれはばらばらになる。そのときはロシアが、ほかの共和国を引っ張って行くしかない、と彼は見ている。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
それに対して、ゴルバチョフ大統領は、ソ連を完全に解体してしまふのは危険だ、と考えている。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
9月2日から、バルト3国の独立を承認する、ソ連邦の臨時人民代表委員会が開かれた。冒頭、ゴルバチョフ大統領と、ロシアを含む下の共和国が、ソ連は今後、ゆるやかな主権国家連立をめざして行く、という共同声明を発表した。連立を構成する各共和国は、経済同盟や集

ねなかつたからである。

冷戦が終わったとはいっても、またソ連には、おびただしい数の核兵器がある。その気になれば、アメリカに核攻撃をしかけ、人類を滅ぼせることだってできる。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
もしもソ連のクーデターが成功して、保守派が政権をとったらどうなるだろう? 彼らは、自分たちのクーデターを正当化するため、古くさい「マルクスレーニン主義」を持ち出して、ゴルバチョフこそ共産主義の道を踏み外した極悪人だ、と叫び張るだろう。そして、それに文句をいそうを改革派を、秘密警察(KGB)を使って、徹底的に弾圧するに違いない。そうならば、冷戦時代に逆戻り、西側諸国との関係も、きわめて険悪なものになる。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
これはプツィン大統領には、耐えられないことだった。ヤナーエフみたいな得体の知れない保守派に、核兵器のボタンを握られてはたまらない、と彼は思った。今やヘレストロイカの成功は、アメリカの利益でもあるのだ。それにしても、出陣礼日本。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
こんなにアメリカが必死になっているのに、日本政府の高官は、ゴルバチョフ失脚のニュースを聞いて、「ヤナーエフ氏は知日派だから」「ヘレストロイカを推進すれば新政権の承認を考へる」といふふて、とんちんかん発言を繰り返した。クーデターでできた政権が「正統でない」世界中が批判しているのに、そういうことがあっていない。ゴルバチョフは人がないから、クーデターが成功するかも、などと考えたのなら、とんだ思い違いだ。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
ソ連の市民は、もつと立派だった。経済政策がだめなので批判してきたけれど、今日からはゴルバチョフを支持します」と、さっぱり述べた人びとが多かった。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
エリツィンとゴルバチョフは、協力できるか? 保守派は今回の事件で、大きな打撃を被った。ソ連共産党は、74年間の歴史を閉じることにした。もう巻き返すのは、むずかしいだろう。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
いっほう、ゴルバチョフの政治力も低下した。彼が任命した人びとがクーデターを起したのだから、彼にも

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
団安全を保障協定を結ぶ。単独で国連にも加盟できる。ゆくゆくはソ連を、E.C.(欧州共同体)みたいな国家連合に衣替えしようという、大胆な提案だ。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
どうしてこういう声明が生まれたのか?

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
各共和国は、エリツィンのロシアが暴走したら大変と、こはゴルバチョフ大統領に協力することにした。ゴルバチョフも、新連邦条約の調印にこぎつけ、ヘレストロイカの成果を不動のものにしたい。エリツィンのロシア共和国も、保守派の多い人民代表員大会で、改革派を孤立させるわけにはいかない。それぞれの意思が、一致して、妥協が成立、ソ連が生まれ変わる青写真ができた。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
保守派のクーデターで、市民はヘレストロイカの価値を再認識した。「民主改革運動」のシエワルナゼ外相も、今はゴルバチョフ派だ。エリツィン派だと、内輪もめしている場合ではない」と、釘をさしている。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
ヘレストロイカの敵は、保守派でも、民族主義でもない。本邦の敵は、民衆を苦しめるとん底の経済なのだ。ヘレストロイカが成功するために

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
ソ連の経済改革がうまく行かない理由は、いくつあったか。ひとつは、共産党の特権官僚(ノメンクラトゥーラ)が保守派でがんばっていたからだが、今後は片づいていくだろう。もうひとつはソ連の人びとが、まるで市場経済(資本主義)に慣れていないため。これは時間をかけ、身につけていくしかない。非営業系国营企業を民営化していくだけでも、いくの速くなるような大事業だ。保守派の反対で陽の目を見なかつたシャタリン博士の「自由計画」(市場経済への移行計画)を、すく実行に移すべきだろう。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
今度のクーデターは、経済援助をしつたアメリカの責任でもあると、ドイツが非難している。アメリカは、ソ連の政治改革が本物かどうか、じっくり見たいわけだが、ようやく重い腰をあげ、バルト3国を承認した。あとは新連邦条約の調印の見通しがつけば、プツィン政権もいよいよ、大型の経済援助に踏み切るかもしれない。ただ、資金援助をしたくても、アメリカには金がない。そこで日本に、「お前出せ」と言ってくるだろう。

●二人の大統領が、ヘレストロイカを救った
日本政府は、「北方領土が解決するまで、経済協力はない」とを口ぐせにしてきた。日ソ関係はこうと、すぐ北方領土、それ以外何も考えていないのは、本邦に情ない。世界が大きく動いているのに、日本だけが自国のことしか考えていないなんて、それこそ世界のものではない。



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者 現代思想はいま何を考えればよいのか。(勁草書房)などの著者……去年の8月は湾岸危機、今年にはソ連のクーデター 愚かなクーデターのために、貴い市民の血が流れました 民主主義の価値を思い知る出来事でした。

臓器移植は、いいのか悪いのか すつきりよくわかる脳死の話

文・橋爪大三郎

森のなかのお城で、オーロラ姫は静かに眠っていました。王子が口づけすれば、眠りから醒めるのです。そこへどやどや、お医者さんたちがやって来て、いろいろ検査をしてから、敬かに「ました。脳死だ、間違いない。そして早速、オーロラ姫の心臓を別のだれかに移植する手術の準備を始めました。」

——なんていうことになったら、それこそ大変、脳死って本当に、人間の死なのだろうか？

今月は脳死と臓器移植の問題を考えます。

●心臓が動いていても、脳は死ぬ
ややこしい論議も、最近は一段落したみたいだし、脳死は脳死でいいんじゃないの——なんて、簡単に考えていませんか？

どういたしまして、だいたい脳死のことを、ちゃんとわかっている国民はまだひと握り。おまけに専門家もよく話を聞いてみると結構いい加減で、実情はおおまかです。まず、きちんと復習しておこう。

●脳死なんて、昔はなかった。①心臓も、②呼吸も止まり、③瞳孔が開いて、意識がなくなる。この三つ(三徴)がそろえば、それが「人間の死」だった。

一九五〇年代に、人工呼吸器が実用化して、自力で呼吸できない患者も治療続けられるようになった。ところがそんな患者を、死んでから解剖してみると、脳がドロドロに溶けている場合がある。心臓よりひと足先に、脳が死んでしまう。これが、脳死である。

●血液が止まると、脳死が起こる

脳がドロドロに溶けるのは、脳の細胞が特別な分解酵素を含むため、血液の流れが止まって脳細胞が死ぬと、この酵素が働いて、つぎつぎ細胞を溶かしてしまふ。

●脳死は、どういう順序で起こるのだろうか？
まず、脳出血などが原因で、脳が炎症を起こして腫れる。そこで、脳内の圧力が高くなり、血液が十分に流れなくなる。するととつと炎症がひどくなり、一段と圧力

が高まる。これを繰り返しているうちに、とうとうまったく脳に血が流れなくなり、脳全体が死んでしまうのだ。脳死になれば、脳幹の呼吸中枢も動かなくなるから、自力で呼吸できない。人工呼吸器のお世話になるしかない。この段階では、まだ心臓も動いているし、体温も温かいが、それでも数日たつと死んでしまう。

●脳死は、いろいろな問題を投げかけた。脳が死んでいるのなら、治療を続けても無意味ではないか？ それに、まだ動いている心臓を、別の患者に移植したら、ちよūdいいのではないか。

●脳死の時点が死なら、心臓移植はまきれもない殺人である。でも、脳死をその人の死と考えることにすれば、立派な治療行為だ。

●植物状態と、脳死はどう違うか

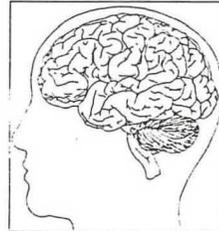
もう常識だと思いが、脳死を、意識がなくなつて寝たきりになる「植物人間」と混同してはいけない。

●植物状態の場合、大脳が働かなくなり、脳幹(中脳、延髄など)は生き残っている。脳幹は生命の維持をつかさどる場所なので、栄養を補給して看護すれば、何年も生きていられる。反対に、脳幹が破壊される場合が、脳死だ。大脳も脳幹もすべて破壊されてしまえば、全脳死だ。脳死とはちよūd、全脳死のことである。

●では脳死を、どうやって判定するか？
それには、①脳のあらゆる部分が、②一度と回復できないほど、破壊されているのを確認しないといけない。でも、解剖して調べるわけにいかないから、それを間接的に、脳の働きが停止しているというかたちで調べる。これを、脳の機能死という。

●厚生省の研究会「竹内一夫氏ほか」が一九八五年、外国の例を参考に、脳死の判定基準を決めた。
①深い昏睡状態にあつて、
②自分で呼吸することができず、

③④の基準はもともと、人間の臓器の一つにすぎない脳の機能が、破壊された「脳死」かどうかを調べるためのものだった。ところがそれが、いつの間にかひとり歩きを始め、心臓死にとつて代わらうとしている。心臓が止まれば、血流が止まり、全身の臓器が確実に死ぬ。けれども脳死の場合、脳以外の部分はしばらく生きていて、妊娠している女性の子供を産むことだってできる。これが「人間の死」だろうか？



① 人間の頭をタテに切った断面図。この図でいちばん広い面積を占めているのが大脳です。大脳の右真下から小脳、そこから出てくる管のようなものが脊髄です。本文中出てくる生命を維持する脳幹とは、この大脳と脊髄を結ぶ、中間(脳幹)・現下部(中脳、延髄)を指すこととす。脳幹は、全身として、呼吸、心臓、体温調節など、基本的な生命現象の中枢として使われており、脳幹のクッキーにも似た形だといわれます

② 立花「脳死」(中央公論社)
「脳死」の考えは、この本でわれわれの常識になったといつてもいいでしょう。脳死の「死」(中央公論社)は、名作です。ほかにも脳死を、もっと広い文脈で考える本として、渡平忠実「脳死・臓器移植」(かんき堂)、橋爪大三郎「脳死・臓器移植」(中央公論社)など

③ 瞳孔が開いており、
④ 脳幹が正常ならあるはずの、七つの反射がなく、
⑤ 脳波もまったく平らである、
⑥ しかも、①②③④の状態が6時間続く。
日本医師会の生命倫理懇談会(加藤一郎座長)も、政府の脳死判定(永井道雄会長)も、この「竹内基準」をそのまま採用している。

●この基準は、それなりによくできているが、これで間違いない、脳死が判定できるのだろうか？
●意識が残つても、調べる方法はない？
「脳死」の著者、立花隆吉さんは、①②の基準を満たしても、患者に意識が残っている(脳が生きている)かもしれない、という疑問を投げかけた。

●人間の意識は、大脳の働きによるのだから、そのメカニズムがよくわかっていることを調べたいわけだが、じつは反射をとびとびに調べるだけだから、残りの部分が生きていて、可能性もある。そういうケースでは、大脳の働きも残つていて、うつつら意識があるかもしれない。だから竹内基準に加えて、脳に血液が流れなくなつて

●脳死判定は先ごろ、脳死は「人間の死」である、とする中間報告をまとめた。いっぽう、倫理委員からは、「いや、人間の死でない」とする少数意見を、別に発表した。また結論を出すには早すぎるのだ。

●実際、医療現場も混乱している。厚生省が昔、全国で脳死と判定された百例あまりを調査したところ、大部分が、①②の基準を満たしていなかった。そんなものを、担当医の判断で「脳死」にされてしまつてはたまたまない。不信がつのばかりだ。

●和田心臓移植の後遺症

●それに、脳死が「人間の死」とあるという社会的合意ができて、判定基準もできたからといって、医師が患者から臓器をどんどん取り出していっていいわけではない。わが国ではこの二十一年間、心臓移植の手術が一件も行われていない。それは、最初の手術が、あまりにひどかったからだ。

●一九六八年、札幌医大の和田教授が、日本で最初の心臓移植手術を行った。脳死かどうかはつきりしない青年の心臓を取り出し、必要もないのに、軽い心臓弁膜症の宮崎君に移植。拒絶反応のことをほとんど研究していなかったせいもあって、宮崎君は83日後に死んでしまった。証拠不十分で不起訴になったが、殺人罪に問われてもおかしくないケースだ。

●この事件のおかげで、心臓移植という今でもイメージが悪い、医師たちも、失敗したら何を言われるかわからないと、怖くて手術ができていない。

●臓器移植のための、安心できるルールづくりを
和田移植は論外としても、二度と似たような事件を起こさないよう、厳しいチェックが必要だ。

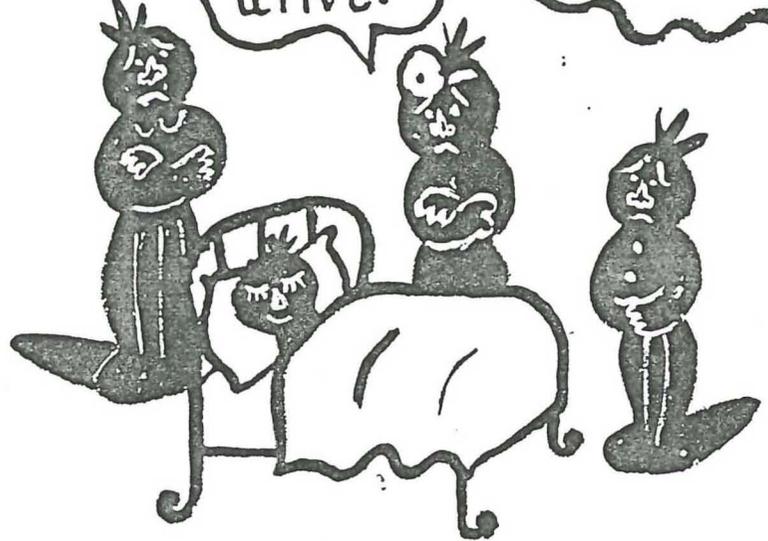
●それにはまず、脳死や臓器移植のあり方について、専門家や公衆の間で、人びとのどんな疑問にも答えられるよう、徹底的に議論を尽くすことではないだろうか。その手間を惜しむと、世論の理解が得られず、結局回り道をすることになる。

●でも、こうしている間にも、移植以外に助からない患者さんが、一人また一人と亡くなっている。待ち切れず、海外に手術を受けに行く人もいます。脳死判定のある委員は「進んで臓器を提供する人と、それで生命を承らえた人がいるなら、それを阻むのは罪である」と述べたというが、その通りである。だれもが納得できる、臓器移植のルールづくりを急ぐべきだ。

He is...



I wonder whether he is dead or alive.



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。『現代思想はいま何を考えればいいのか』(勁草書房)などの著者。……科学や技術が進歩したおかげで、脳死や原発など、勉強しなければならぬことが増えました。最低限の仕組みは、しっかり理解しておきたい。

●脳が死ぬば、その人は死んだのか
ところで、脳が機能しなくなること、その人の死は、同じでない。

●いることも、血管造影で調べるべきだ。聴覚神経(脳幹をタテに走っている)の機能がなくなったこともチェックしたほうがいい。臓器移植をやる場合は特に、ここまで念を入れなさい、と立花さんは言う。なるほど、私も思う。

T.P.O.に合わせて名前も着替える時代?

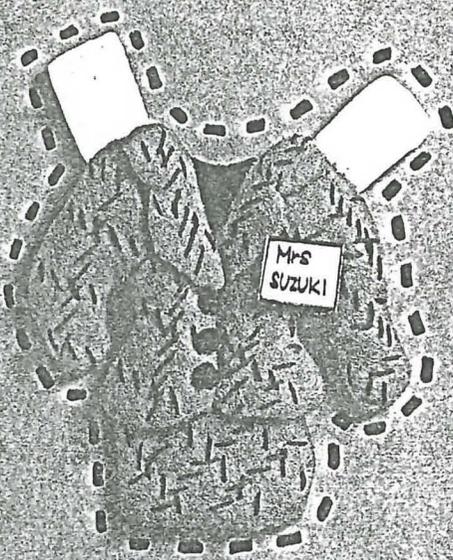
以前、本誌連載中の社会科学院で、夫婦別姓を扱ったとき、大反響をいただきました。編集部は早速読者アンケートを実施。皆さんの生の声をここで紹介します。さて、あなたは?



●今後、仕事を続ける女性が増えるからその状況に合わせて名前を別姓にする。とはいいたいと思いません。(24歳・未婚・会社員)

●社会的に大人の働きをしている人は別姓のほうがスムーズかも。私も多分仕事上は、変えないと思うが、姓が変わるのは、彼と二つになったことの証としてうれしい。(24歳・未婚・ピアノ教師)

●混乱ももつもの問題もあるが、できるなら私は別姓にしたい。社会的、法律的



にも認められるようになれば、よいと思う。(24歳・未婚・自営業)

●生まれてこの方、名乗ってきた名前が変わるのは、面倒だし、同じ名字だとしても、鎖でつながれているような息苦しさを感じる。(28歳・未婚・無職)

●同姓の延長みたいでけじめがない。私は絶対にイヤ。(23歳・未婚・会社員)

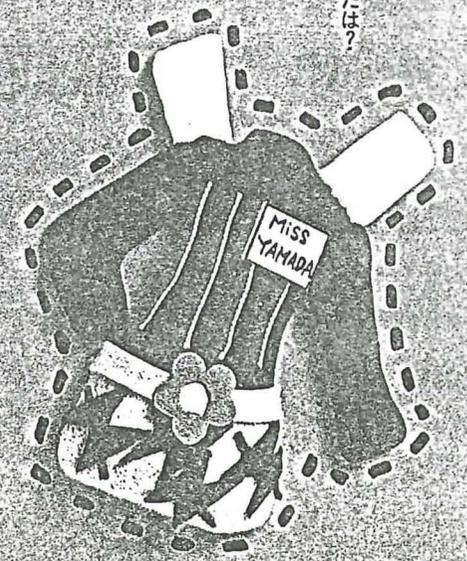
●法律の改正を求めるほど生活に支障があるの?。主に仕事面かと思うけど、単に結婚したことを知られたくないとかそういう都合のいいことだけで言っているのでは?。(26歳・未婚・医療検査技師)

●子供はどちらの戸籍?。兄弟なのに別の名字は、ちょっとおかしいと思う。仕事なら仕方ないけど、なにもそこまでしなくても。(24歳・未婚・会社員)

●いくら、婚前の氏名で仕事をもらっているとしても結婚当初のみ、そのことを説明すればよいことで、本当に仕事のできる人なら極端にこだわることはないよ。(29歳・既婚・会社員)

●財産の問題などが露骨にからんでくるから、夫婦別姓を論じること自体、いさよな感じである。(21歳・未婚・学生)

●カッコイイ名字なら夫の名字でいい。クサイ名字なら別姓。(26歳・未婚・会社員)



●個人の自由なので、夫婦別姓がよいと思う人もいたり前にも思っています。ただ、周囲の誤解や、子供のことを考えてから踏み切ってほしい。(26歳・未婚・会社員)

●選択は自由がよい。別姓が当然なものも何か強制的に感じる。(26歳・未婚・英語講師)

●別姓も悪くないと思いますが、生まれた字はどっちの姓に?。(21歳・既婚・会社員)

●夫の姓を名乗る喜びと他家の者となってしまうという寂しさがあると思う。(24歳・既婚・会社員)

●何とも思わないが、中国のような制度でもよいと思う。(26歳・未婚・会社員)

●いい、悪い、賛成、反対という問題じゃないと思う。必要とする人ができるよ。(24歳・既婚・会社員)

●10月に結婚しますが、本当はいまの名

前のままでいい。心算に入っているんです。この名前。(26歳・未婚・会社員)

●何とも思わない。どしてもいいよ。(26歳・未婚・スポーツクラブ事務)

●でも、いまの日本の社会では面倒が起こりやすいと思う。(26歳・既婚・無職)

●まだ法的に認められていないので、私は別姓にしたいと思う。(27歳・未婚・会社員)

●別姓にこだわらう。自室のように、

私たちがもっと自由に名前を選びたい

夫婦別姓を考へる。

親から独立して新しく家庭を築き、新姓を創出するというのはいいのはず。(29歳・未婚・大学事務)

結婚というハードルを越えるときに、どういう選択をしたのか、数名の読者に取材してみました。

●就職3年目に結婚。名字を変えました。結婚したら相手の姓を名乗るのは当然と思っていました。私は小学校教師ですがほかの先生方も皆、新姓に変えていたの。別姓は全然考えませんでした。学年の途中で、子供たちも、結婚したか

ら新しい名前なんだね、と自然に受け入れていました。ただ仕事によっては、別姓が必要なものもあるでしょう。それぞれの考え方で選択したいと思えます。(28歳・既婚・結婚歴10年)

●結婚後、特に名前にこだわらず仕事をしていたので、結婚したと知っている人が自発的に呼び替えてくれるくらいで、基本的には旧姓で仕事をしています。1年前に離婚。仕事を本格的に再開。信用など得るのに何かとスムーズなので、旧姓で仕事を続けていてよかったです。実感

しています。山本優子さん(21歳・既婚・既婚歴10年)

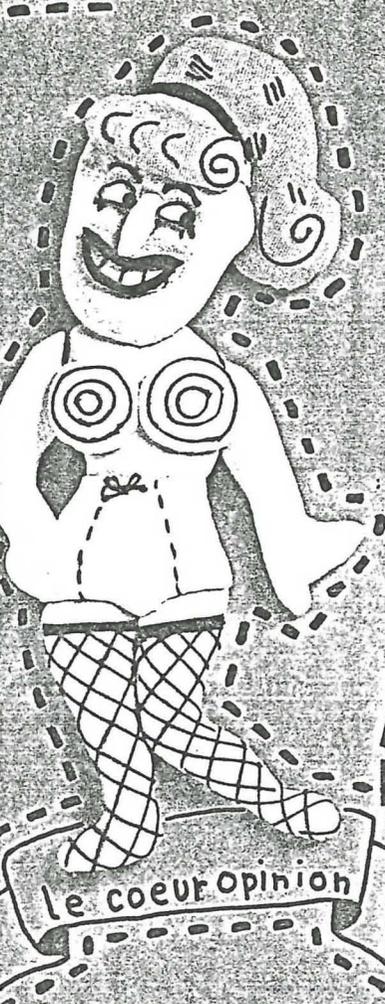
●名前と顔が一致するメリットが大きいので、仕事上では旧姓を名乗っています。一度デビューしてしまえば、もう一度変えてほしくないような雰囲気はありましたけれど、結婚して10年、やっとなんか自然に使い分けられるようになったと思います。ただ、名字はあくまで夫婦の問題だと思うので、各夫婦が相談して、自分たちがいちばん合っ

たり方を選ぶのが、いいのではないかなと思います。(29歳・既婚・オヘア歌手)

●籍を入れる(つくる)こと自体に疑問があったので、入籍しない事実婚を選択。結婚2年後の現在も旧姓のままです。結婚し名前が変わってしまつたら今までの29年間のS.K.はどこに行っちゃうの?とも思っています。(27歳・既婚・結婚歴10年)

●いつまで旧姓で通すの?と聞かれて、ちょっとブレブレ。意地を張っていると思われたり、妙に気負わなければならなかったりすることはあります。彼とは、結婚式に関しては、気さくな人がやらないようなものに、と意見が一致。でも、私が結婚全体に関しての考えでいたのに、彼は結婚式だけとらえ別姓には抵抗があったようです。結婚して女性が男性の名姓に変わると、結婚が決まってる。なんてワケの分からないことを言ったりしてましたが、あなたが、これまでのMという名字からKに変わって考えてみて話したら、考えやっとなんか自然に使い分けられるようになった。将来子供をもうつとき別姓を聞くかも。一度考えなければならぬ。(26歳・既婚・結婚歴10年)

●現在の日本の法律では、結婚したら夫または妻の姓のどちらかを選ばなければなりません。でも実際は、97.5%の人が夫の姓を名乗っています。今回のアンケートでもいろいろ意見がいろいろありますが、名前はその人のアイデンティティを表すもの。人と同じ、ではなく、よく考えて自分にとっていい選択をすることが大事なのではないでしょうか。



世界各国では夫婦の姓をどうしてる?

姓について原則自由●イギリス、アメリカ、オーストラリア
 夫の姓は不変更(別姓)●フランス、中国、カナダ、ケベック州、韓国
 夫ととも姓、同姓、結合姓の選択から選べる●スウェーデン、東欧諸国、ソ連
 夫の姓不変更、妻は夫の姓を付加使用(結合姓)●イタリア、ラテンアメリカ諸国、ポーランド
 妻が自分の姓の上で夫の姓を冠する●台湾
 夫と妻は共通の姓(同姓)●ドイツ、日本



炭酸ガスの温室効果で、東京も海底に!?

悪化する地球環境、人類の危機が迫る

文・橋爪大三郎

さて、お手近のヘア・スプレーをちょっと見てみて、「ちみゆにやさしい」エコ・マークがついてますか。「可燃性」のLPGガスをならはら、フロンガスを使っているから大丈夫だ。

フロンガスは人畜無害で、しばらく前まで、どんな使ってもいいことになってた。冷蔵庫やクーラーも、冷却用にこのガスを使っている。ところがやがて、公害の原因になることがわかってきた。

われわれの地球は、オゾン層というものにぐるぐる取り囲まれている。これが、太陽からやって来る強烈な紫外線をシャットアウト。生物が無事に生きていられるのも、オゾンのおかげだ。ところがフロンガスは、なかなか分解されないために上空まで昇っていき、オゾン層を破壊してしまう。その穴(オゾン・ホール)から有害な紫外線が降り注いでくるから、うっかり日光浴をしたら皮膚ガンになるかもしれない。

そこで日本では、フロンガスをなるべく使わないように決めた。けれど、冷蔵庫やクーラーを壊すたびに、フロンガスが出てくる。紫外線の被害がいよいよ深刻になるのは、21世紀になってからだといふ。

フロンガス以上に、今すぐ何とかしなければならぬのが、炭酸ガスである。炭酸ガス(二酸化炭素)は、空気中にだいたい0.03%くらい含まれている。ところが産業革命が起って人間が石炭や石油を燃やすようになったので、この値がだんだん上昇してきている。

炭酸ガスが増え続けると、気温も上昇しよう。地球の温度は、入ってくる熱量(太陽光線)と逃げていく熱量とがバランスしていて、ほぼ一定に保たれていく。炭酸ガスが増え続けると、気温も上昇しよう。地球の温度は、入ってくる熱量(太陽光線)と逃げていく熱量とがバランスしていて、ほぼ一定に保たれていく。

ところが、空気中の炭酸ガス濃度が上昇すると、熱が逃げていきにくくなり、温度も上がってしまう(温室効果)。最近の異常気象は、そのせいではないのかと、本気で心配し始めた人も多い。

ところで、気温が上がると、どうなるのでしょうか。冷えて冬は苦手なので、大助かり! そんなことを考えているあなたは、はつきり言って単純です。まず、ちよつと気温が上がると、気候ががらりと変わってしまう。大雨だつたりカラカラ天気だつたり、今までのような農業は続けられなくなる。

それだけでなく、南極や氷河の水が融け始め、海水自身も膨張して、海面が上昇する。東京みたいな海沿いの大都市は軒並み水没。オランダやバングラデシュのような国は、まるごと海の底に沈んでしまいかねない。

このままほっておいたら大変。そこで、一九八九年のアルシュ・サミットで、先進各国は、炭酸ガスの排出を減らせないかと、話しあつた。そして「持続可能な開発」(資源を取り尽くしたり環境を破壊したりせず、後の世代にも豊かな地球を残していけるような開発)をめざすことで意見が一致した。

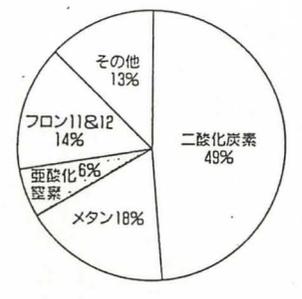
しかし、現実が対立しなすべいかとすると議論は出ない。石炭や石油を燃やせばどうしても出てきてしまうものなので、減らすのがむずかしいからだ。ヨーロッパには、炭酸ガスを一律20%カットしよう、と提案している国もある。省エネルギーを思い切つて進めれば、それぐらいできるはずだという考えだ。

日本も、それに賛成したいところだが、かなり省エネルギーを進めたあとなので、このうえ20%カットはきついな。横ばいぐらいの目標がちょうどいい、と思つている。アメリカは絶対反対だ。自動車工場のアメリカは、石油なしでやってみよう。20%もカットされたら経済がストップしてしまう。

エコ・ライトが、地球を救う? このへんの問題をなるべくスムーズに解決するため、「エコ・ライト(温室効果ガス排出権)」というものを考案している人がいる。「ル・クール」読者の皆さんに興味をもってもらえると思うので、紹介しましょう。

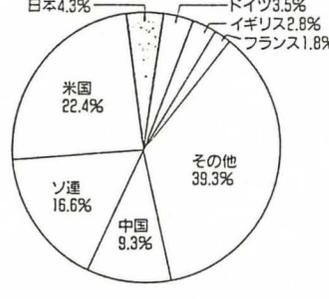
橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「現代思想はいま何を考えればよいのか」(勁草書房)などの著書。……身の回りから危険をなくすはずだったフロンガスが、環境を破壊してしまうと皮肉です。地球環境問題めきに、現代を語ることはできない。

▼各種温室効果ガスの温暖化への寄与の程度(1980年代)

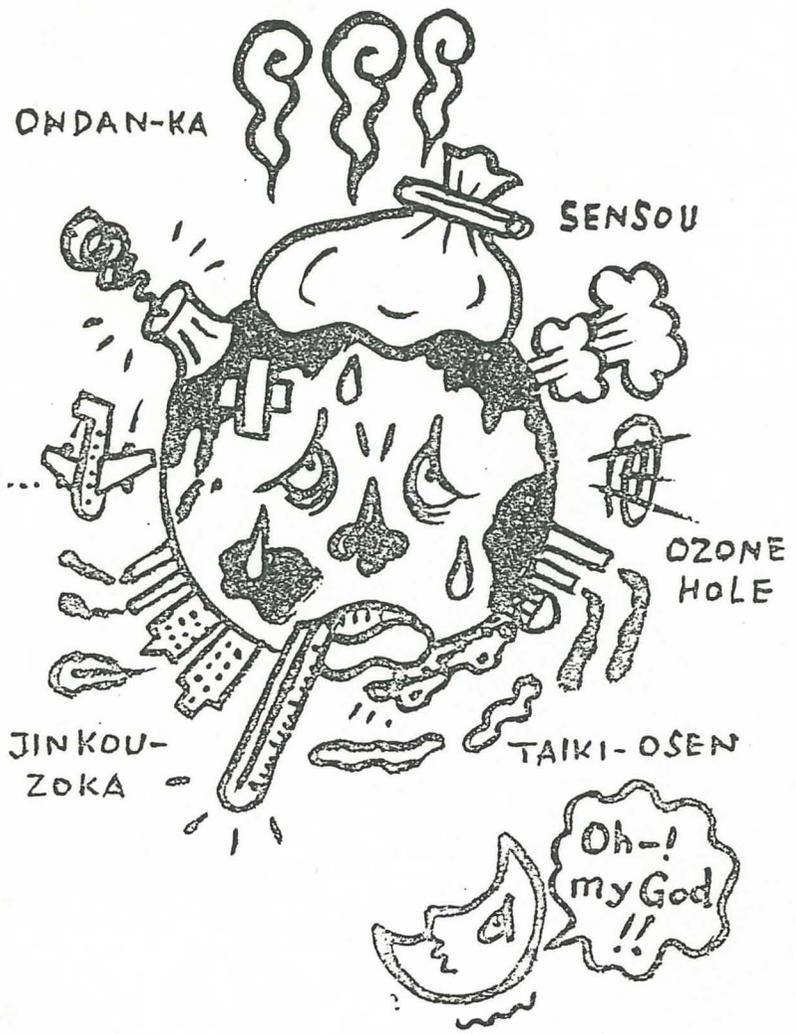


1 近年、二酸化炭素の地球温暖化への寄与の程度は高まってきたが、代わりにフロン、亜酸化窒素、メタンの寄与が増加している。2 温室効果ガスの排出量を1とすると、メタンは10倍、亜酸化窒素は100倍、フロンは1万倍の強さを持つといわれている。

▼世界の二酸化炭素排出量等に占める日本のシェア(1986年)



排出量の割合を基準として見ると、中国が全体の39.3%、ソ連が16.6%、米国が22.4%、日本が4.3%、ドイツが3.5%、イギリスが2.8%、フランスが1.8%、その他が1.3%を占めている。



エコ・ライトとは、ひとりで言うと、石油や石炭を燃やしてはいけません、という切符みたいなもの。これがなくとも、炭酸ガスを出してはいけない、という条約がないと、エコ・ライトを発行する国際機関(仮に「エコ・ライト銀行」とよぶ)を設立する。

エコ・ライト銀行では、専門家の意見をよく聞いて、地球環境についての予測を立てる。そして、毎年どれくらいの炭酸ガスを出してもいいのかを決め、エコ・ライトの切符を発行する。そしてこれを、世界中に配る。

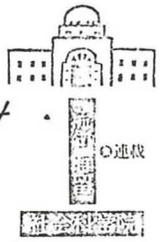
その配り方が、三分の一ぐらいは、GDP(過去の実績)に応じて主として先進国に、つぎの三分の一は、人口に応じて世界各国に配る。残りの三分の一は、エコ・ライト銀行の資金としておく。熱帯林を保護するなど、地球環境を守るのに貢献した国の政府や企業に、援助を与えるためだ。

そして、エコ・ライトを自由に売買できる。エコ・ライト市場を開発する。電力会社も製鉄会社も、炭酸ガスを出す社のある企業はみな、この市場で切符を購入する。石油を買うほかに、この切符を買うのだから、まあ一種の投資みたいなものだ。

こう決めることがいかにいいかという、まず、排出される炭酸ガスの総量、今年は何万トンというように、確実に規制できる。つぎに、企業にとっては、必要なエコ・ライトが買えるので、経済活動の自主性が損なわれない点がいい。第三世界にしても、余分なエコ・ライトを先進国に売って、経済発展のための資金を作れるといううまい味がある。八方まるく収まるいい制度だ。

エコ・ライトはなかなか優れたアイデアなので、ぜひ実現してもらいたい。ただ実際、どの国にエコ・ライト切符を何枚配るかという話になると、目光の利害が先に立って、なかなか相談がまとまらない。

だからこそ、日本の責任はぐんと重い。本当なら国際世論をリードしなければならぬアメリカが、炭酸ガスの話になると、ずいぶん身勝手なことを言っている。ソ連や中国も、炭酸ガスをかなり出しているせいか腹が重い。だから、省エネ技術ではじかーの日本が、環境問題に理解の深いEJCとスクラムを組んで、世論をそちらの方向に引っ張っていくべきだ。それが、熱帯林から輸出される丸太の半分以上に輸入している日本の、最小限の責任というものだ。



1991-4
13/13

冷戦が終わったからといって安心できない！ 「核兵器が怖い」これだけの理由

文・橋爪大三郎

ある晴れた一日のこと。
ミズリー州のカンザスシティー郊外の戦略ミサイル基地から、天をつくような白煙と大音響を残して、ミサイルが青空に飛び立って行った。第三次世界大戦の始まりかもしれない。けれども、レーダーがいったん敵のミサイルの姿をとらえたら、もう止めようがない。一時間以内に、ワシントンもモスクワもニューヨークも、水爆のキノコ雲で覆われるのだ。直撃をまぬがれた人びとも、死の灰に苦しみながら死んでいく……。

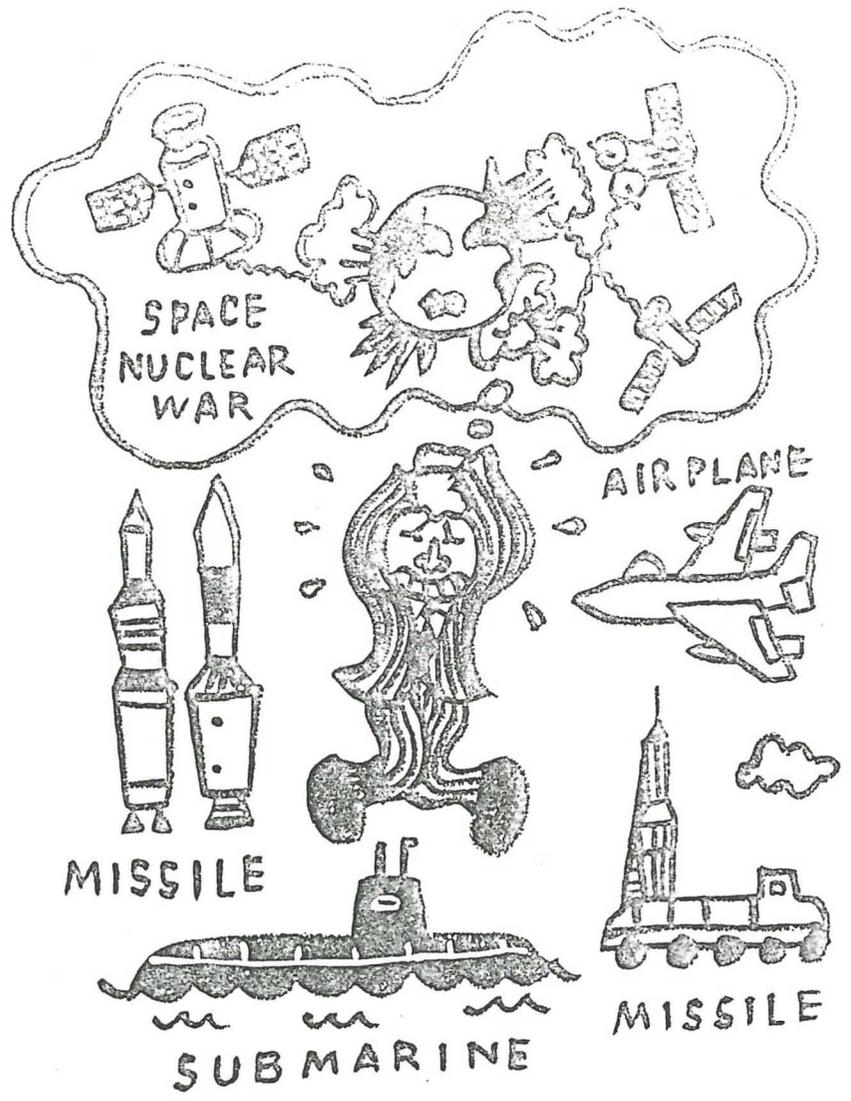
半世紀のあいだ、人類の悪夢であった核戦争。それがいま、過去のものになりかけている。91年10月、ゴルバチョフ大統領は、ソ連の核戦力を一方的に大幅削減すると発表。ブッシュ大統領はこれを歓迎して、アメリカも同様な軍縮に踏み切ると約束した。
冷戦が終わった。米ソが水爆を落とすという可能性もなくなった。平和な時代がやって来る……。

だが待てよ。本当にそうだろうか？ 今号は、核兵器と平和について考えます。
●冷戦は、こうして始まった
広島、長崎に原爆が投下されると、スターリンはずくさまよ連の科学者を集めて、こう命じた。「怠りて原爆を完成させろ」。それから4年後、ソ連もまた、核実験に成功した。
アメリカや西側諸国は、第二次大戦が終わるとすぐに動員を解除、軍隊を大幅に縮小した。だがソ連軍は、装備を温存したまま東ヨーロッパに居すわり、社会主義圏をさしこめてしまった。西側諸国は、ソ連の戦車が一方に攻めて来た……という恐怖が頭から離れない。
通常戦力（核兵器以外の軍事力）を比べると、ソ連が西側を圧倒している。そこでアメリカは、もし攻めてきたら、仕返しにありつきの原爆を落とすとぞと、ソ連を

脅かすことにした。大量破壊戦略。原爆だけでは心配なので、水爆も開発した。そうやって、「共産主義の脅威」から同盟国を守る。これを「核の傘」という。
でも、ソ連もたまたま水爆を開発。一九五〇年代に入ると、米ソは大量破壊水爆実験を繰り返して、死の灰（核実験の放射能）を世界中にまき散らした。
●核兵器はだんぜん、安上がり
核兵器の登場は、それまでの戦争の常識を、根本からくつがえしてしまっただけで、核兵器は万端であるという神話も生まれた。しかも核兵器は、破壊力がケタ外れに大きいわりに、作るのが簡単に値段も安い。少数の軍隊でも、敵を圧倒できる。そこでアメリカは、爆撃機や潜水艦を、みな核兵器を積めるようにつくり直した。ソ連ももちろん、その真似をした。

原爆や水爆は、目標に命中しないことには、何の役にも立たない。運糧手段であってその核兵器である。最初のうち原爆は、B29みたいな長距離爆撃機に積んで、相手の国に落とすことになった。
ところがソ連は、空軍が手薄だったせいもあり、大型のロケット（ICBM、大陸間弾道弾）に核弾頭を積んで、アメリカを攻撃できる態勢をととのえ始めた。アメリカも慌てて、これに対抗できるロケットを開発した。
●相互確証破壊とは？
超スピードで飛んでくるロケットを、撃ち落とすのは至難のわざ。いったん核攻撃を受けたら、おしまいである。せいぜい出来るのは、残った核兵器で反撃し、相手の国を同じ目にあわせようとするだけだ。でも実は、これが大切。不意打ちの先制攻撃を仕掛けても、自分もやられてしまおうと思えば、思いどなるだろう。
核戦争が起これば、米ソのどちらも確実に相手に破壊できる。これを、相互確証破壊という。こういう恐ろしい力の均衡が、核戦争をさうろうして防いできた。

●互に確証破壊とは？
超スピードで飛んでくるロケットを、撃ち落とすのは至難のわざ。いったん核攻撃を受けたら、おしまいである。せいぜい出来るのは、残った核兵器で反撃し、相手の国を同じ目にあわせようとするだけだ。でも実は、これが大切。不意打ちの先制攻撃を仕掛けても、自分もやられてしまおうと思えば、思いどなるだろう。
核戦争が起これば、米ソのどちらも確実に相手に破壊できる。これを、相互確証破壊という。こういう恐ろしい力の均衡が、核戦争をさうろうして防いできた。



国が足並みをそろえて軍縮する必要があるわけだ。
そこで米ソは、軍縮交渉を重ねて、二つの協定の調印にこぎつけた。72年のSALT I、79年のSALT IIである。SALTとは、「戦略兵器制限交渉」の頭文字で、相手国を直接攻撃する「戦略核兵器」の数を制限する協定のこと。ちなみに、局地戦用の射程の短い核兵器を「戦術核」、もうちょっとだけ射程の長いものを「中距離核」という。

く、単にこれ以上増やさない、という協定だったから。おまけに、ミサイルの総数を制限しただけだったので、ミサイル基地にいくつも核弾頭を積みこむというやばいことになり、全体として、かえって核弾頭が増えしてしまっただけだ。
レーガン政権は、SALT IIみたいな交渉をこれ以上続けなくても意味がないと、それに代わるSTART（戦略兵器削減交渉）を呼びかけた。これは、米ソ両国がそれぞれ一万年以内に抱えている核弾頭を、思い切った半分減らすという提案だ。
●レーガンのSDI（スターウォーズ計画）
この提案は、軍事費の負担にあぐらソ連にも渡りに船のはずだったが、レーガン大統領がSDI（戦略防衛構想）を発表したので、話がこじれてしまった。
SDIとはひとことで言うとう、ソ連から核弾頭つきのミサイルが飛んできてきても、ハイテク兵器を使って途中で全部撃ち落してしまおうというプラン。この技術が完成すれば、核戦争が起これば、アメリカだけは生き残ることになる。これでは、相互確証破壊という冷戦の大枠が崩れてしまふと、ソ連は本気で反対した。

橋爪大三郎 (はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「現代思想はいま何を考えればよいのか」(勁草書房)などの著書がある。……レーガンがSDIを唱えたとき、夢物語じゃないかという反対が多かった。でもそのおかげで、ゴルバチョフは新思考外交に踏み切ることができたのです。

アメリカは、真珠湾の苦い経験があるので、先制奇襲攻撃に対する警戒心が強い。そこで、原爆を積んだB52を常時空中に飛ばせておくとか、核ミサイルを積んだ原潜をうきよきよさせておくとかして、いつでもソ連に反撃できるようにした。ソ連も万が一に備え、余分な核兵器を量産した。その結果、米ソ両国は、人類を何十回も全滅させることのできる核兵器の山になってしまった。
●軍縮交渉の歩みはのろい
こんな軍拡競争を続けていけば、財政がパンクしてしまふ。できれば、軍備を縮小したい。けれども、自分の国だけ軍縮したのでは、バランスが崩れて、相手国の先制攻撃を誘発してしまふかもしれない。どうしても、両

主要国の核開発能力

核保有国	既に核開発可能な国	短期間に核開発可能な国	比較的近い将来に核開発可能な国
アメリカ	カナダ	× アルゼンチン	× エジプト
ソ連	× ドイツ	× オーストラリア	× フィンランド
× イギリス	× イタリア	× オーストリア	× リビア
× フランス	× 日本	× ペルジブル	× ユーゴスラビア
× 中国	× 北朝鮮	× ブラジール	
× インド	× パキスタン	× デンマーク	
	× 南アフリカ	× イラク	
	× スイス	× 韓国	
		× オランダ	
		× ノルウェー	
		× スイス	
		× 台湾	

この表は、「軍縮ハンドブック 平和をよむキーワード100」(宇都宮軍縮研究所編)より引用。国名の前の×印は80年1月の時点で核拡散防止条約の当事国でないことを示す。74年に平和目的で核実験を行ったインドも核保有国として扱われている。

●これからは、核拡散防止が大切
でも、核戦争の恐怖が去ったわけではない。米ソの締めつけがゆるんだ隙に、またイラクのように暴走する国が出てこないとも限らない。イラクのスカッド・ミサイルに核弾頭がついていたらどう思うと、ぞつとする。
そこで米ソは協力して、核兵器の国際管理を強めることにした。まず手始めに、戦術核（小型原爆）を全廃。そしてイラクや北朝鮮など、核開発をしている国に中止の圧力をかける。また万が一に備えて、SDIみたいな防衛網を、米ソ共同で張りめぐらす相談を始めている。
ノー・モア・ヒロシマ。絆糸曲折はあつたけれど、この願いが、やっと世界に届く日がそこまで来ている。